都市と文明の歴史

＃１　都市・名古屋の歴史

2024.05.11

環境土木･建築学科（建築学系）

恒川 和久

本日の講義の目標

都市･名古屋を深く知る

江戸時代の城下町から、明治以降の都市の拡張、戦災や自然災害からの復興といった、日本の都市の典型的な発展形態の一例として、名古屋の歴史を把握する

名古屋大学キャンパスの歴史とあわせみることで、都市の歴史が身近な場所にもつながっていることを実感する

Keywords
城下町、土地区画整理事業、戦災復興

Common Nexus

（仮称）東海国立大学機構プラットフォーム

設計：株式会社 小堀哲夫建築設計事務所（プロポーザル最優秀者）

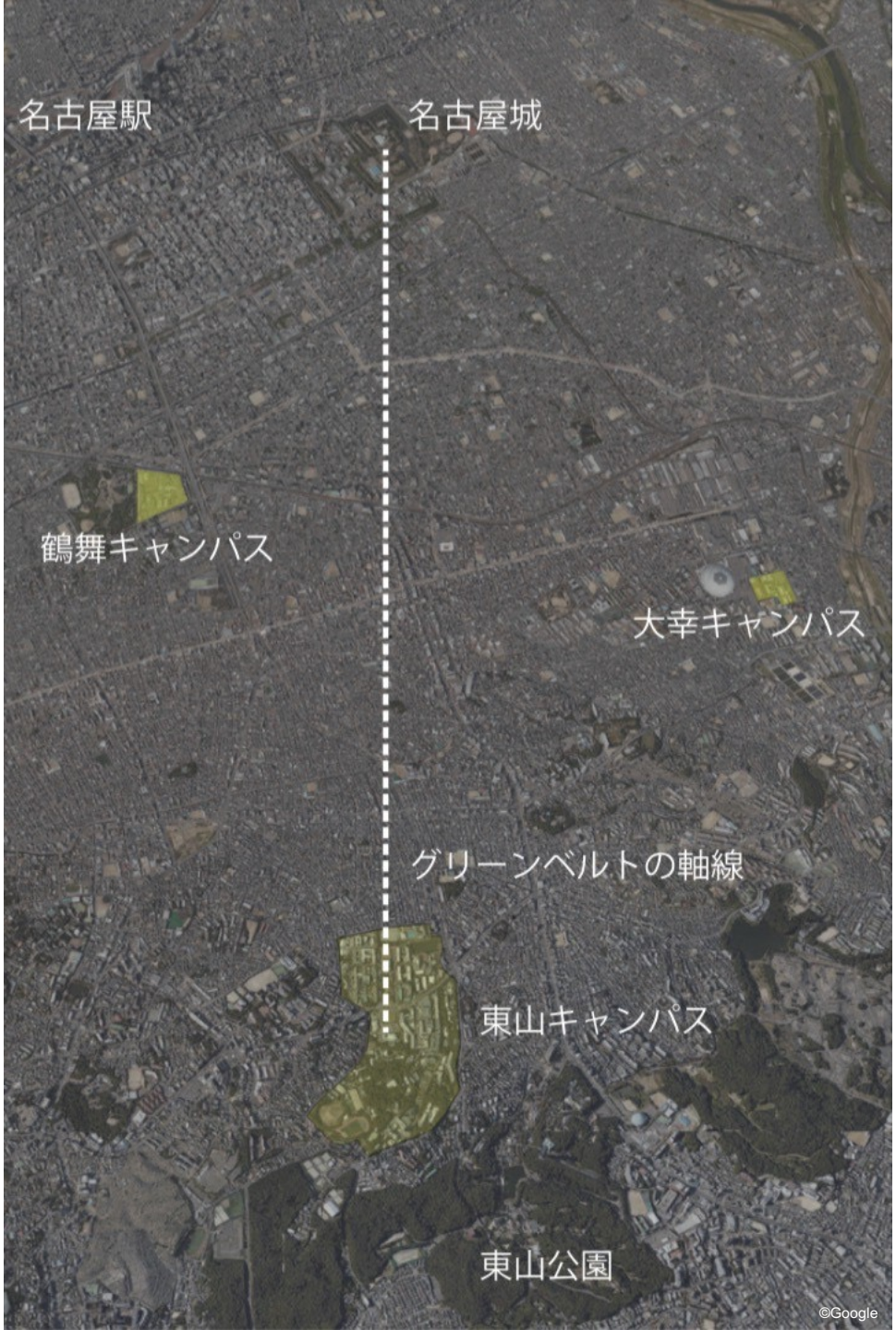
名古屋大学キャンパスマスタープラン2016

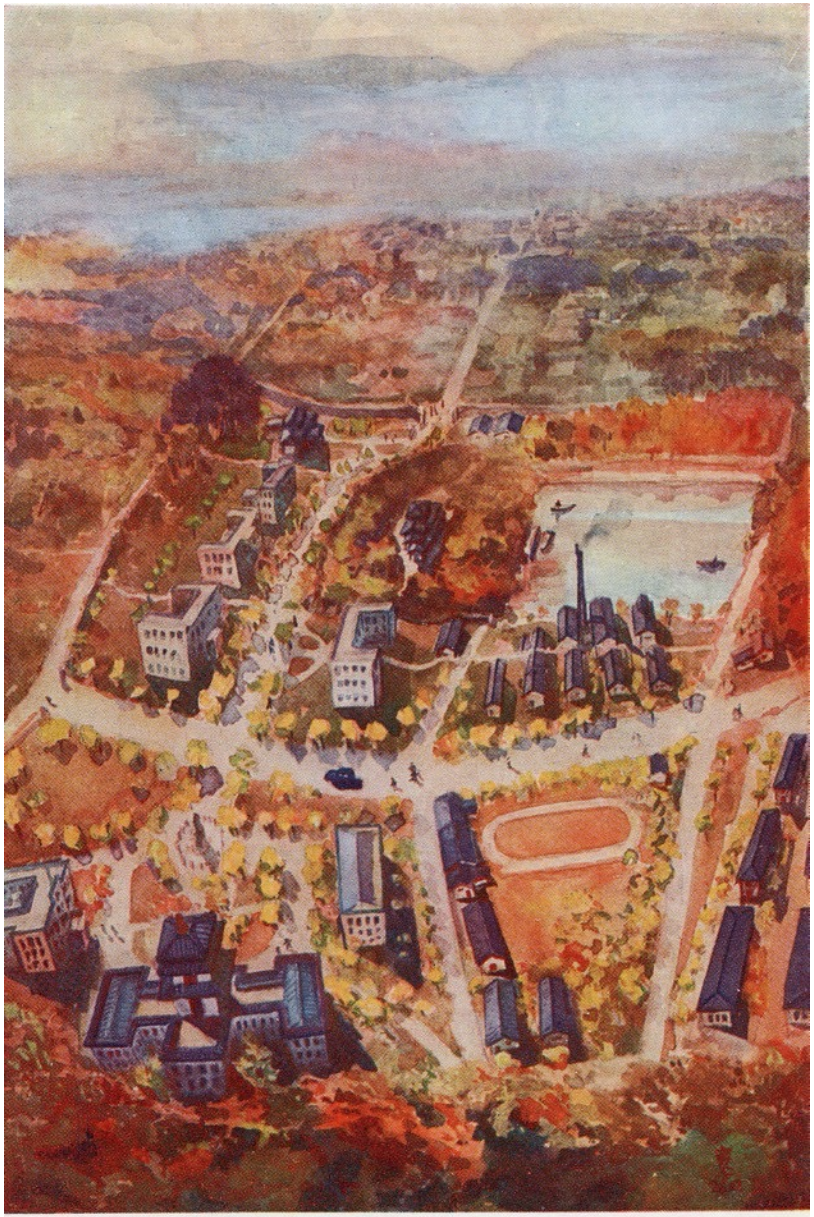
2016年2月撮影

fig.1　東山キャンパスの現況（2016年２月撮影）

30年後の東山キャンパス

fig.2　名古屋大学キャンパスマスタープラン 2016「30年後の東山キャンパス」

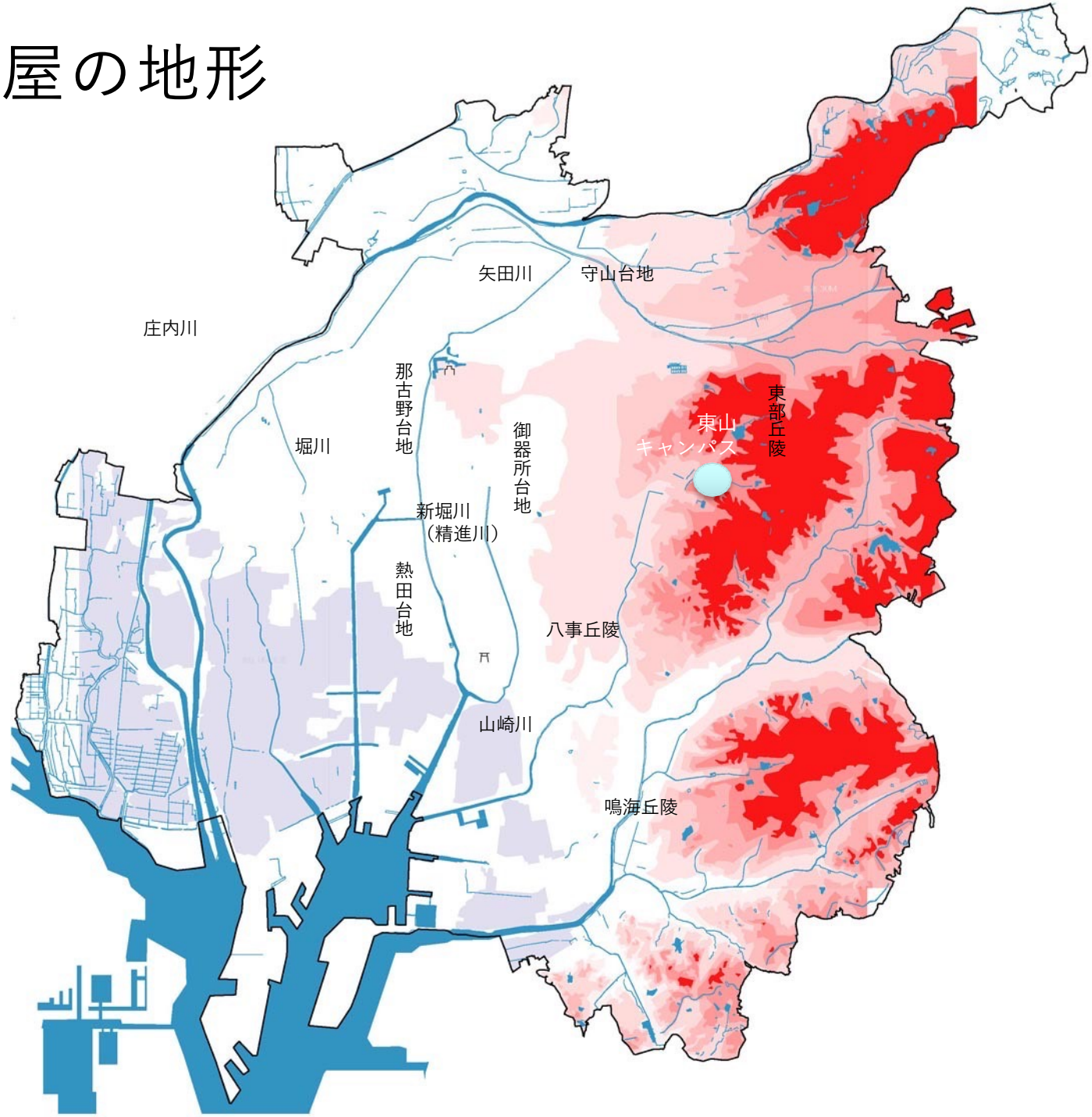




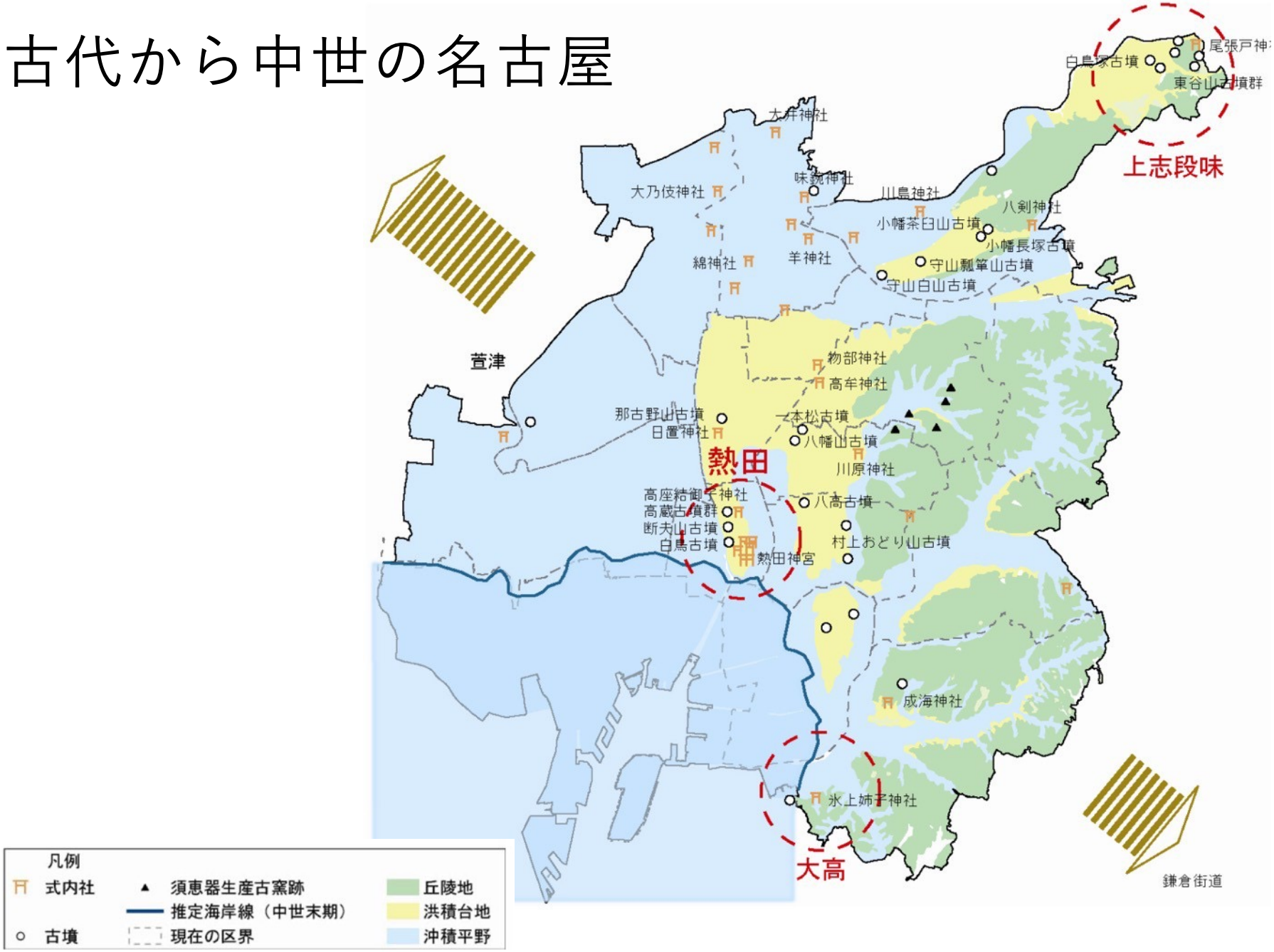
名古屋帝国大学
開学記念絵葉がき（1943）

１. 自然地形と都市の形成

名古屋の地形


矢田川
守山台地
庄内川
那古野台地
東部丘陵
東山
キャンパス
御器所台地
堀川
新堀川
（精進川）
熱田台地
八事丘陵
山崎川
鳴海丘陵

古代から中世の名古屋



出典：「名古屋市歴史まちづくり戦略」2011

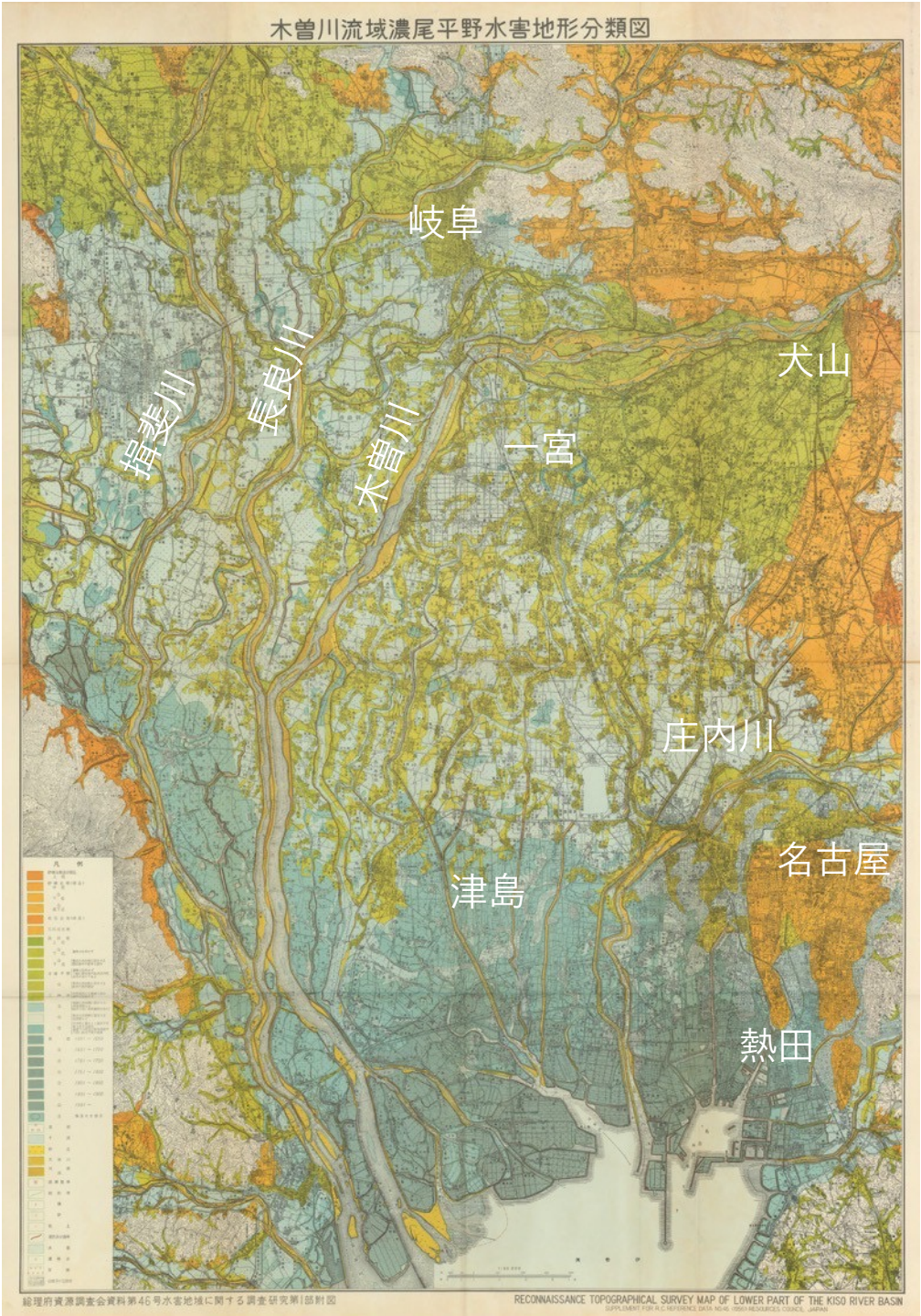
濃尾平野の地形

木曽川、長良川、揖斐川と庄内川が作り上げた濃尾平野

名古屋城下町や熱田は洪積台地に乗っている

- 台地
- 扇状地
- 自然堤防
- 三角州
- 干拓地

大矢雅彦，1956
木曽川流域濃尾平野水害地形分類図



徳川家康の名古屋選地

関ヶ原の戦い（1600）
江戸に幕府を開府（1603）

大阪の豊臣方への防衛の拠点として、交通の要衝である尾張の地に本格的な城の構想を描く

織田信長が築いた清洲を拠点にしようとしたが、沖積平野に位置し、水害の危険などから断念

洪積台地である那古野台地の北端に名古屋城と城下町を開く

名古屋城の北は高さ15mの崖。台地の北・西は湿地帯。さらに北西に庄内川、木曽川が取り囲む

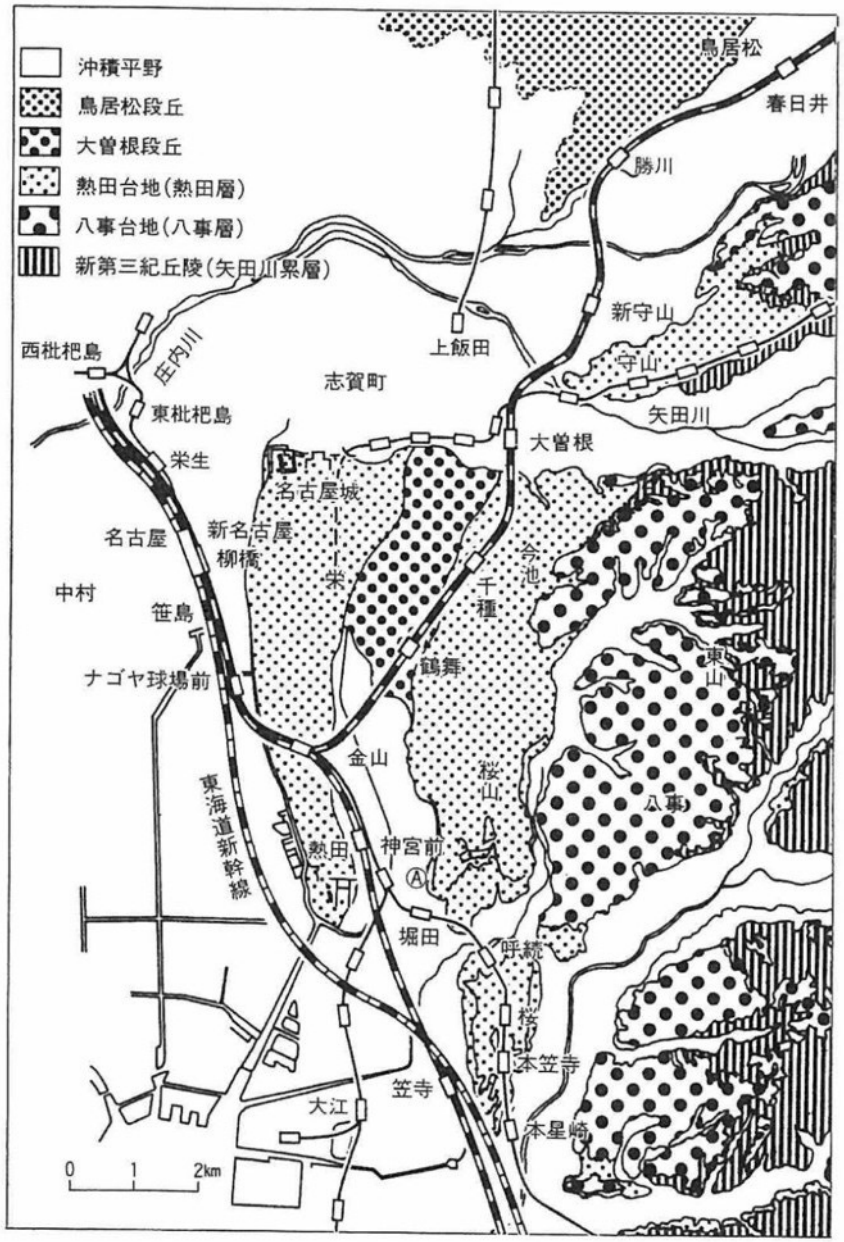


図４　名古屋市城の地質概略図
（井関弘太郎『車窓の風景科学』による）

2. 城下町・名古屋の形成

城下町・名古屋

慶長15（1610）年
徳川家康「名古屋開府」

那古野の台地に名古屋城築城

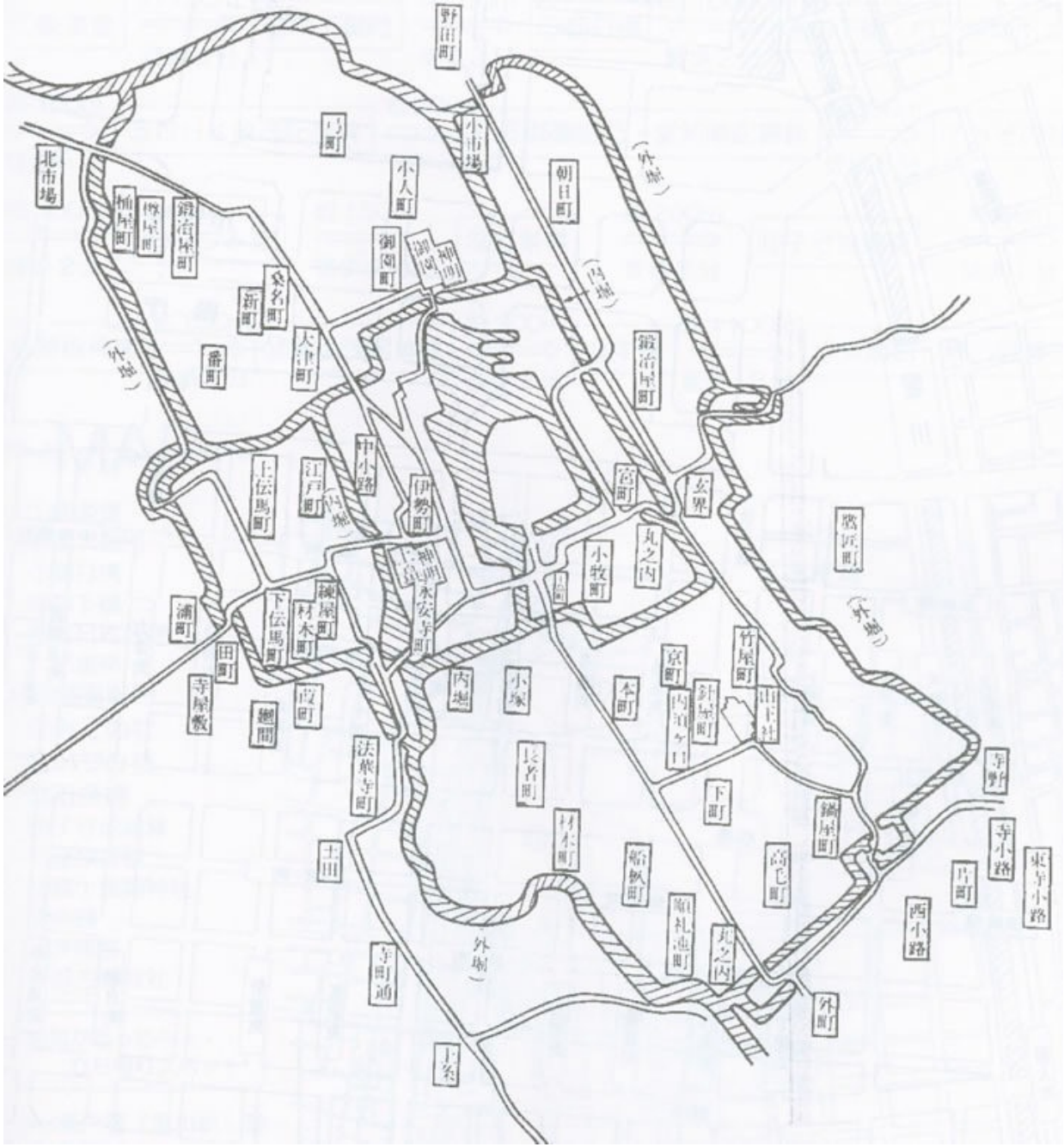
西国大名による天下普請

堀川 開削

「清洲越し」
家臣・商人・職人・神社・仏閣を
そのまま移転

出典：『図集 日本都市史』,東京大学出版会, 1993

清洲・城下町

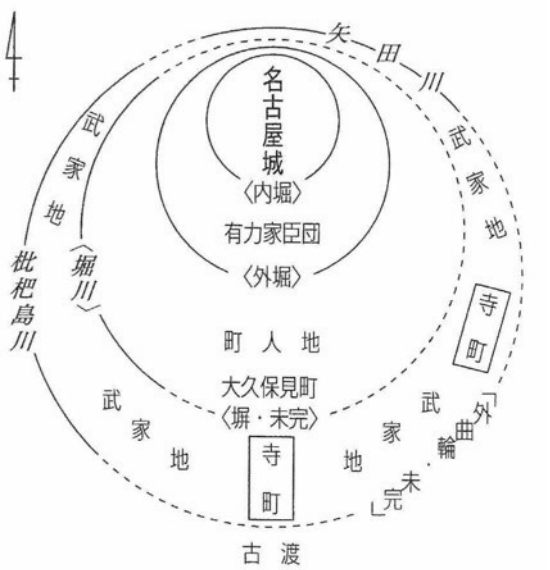


清洲城下町推定図（慶長年間）－（清洲町史編纂委員会「清洲町史」清洲町、1969）

城下町・名古屋の構造

城下町特有の地域制

- 城の周りに外堀内に有力家臣団
- 外堀南に碁盤目状の町人地
- その周囲に下級武家地
- 防御地としての南寺町・東寺町



出典：名古屋城下模式図
茨志麻「近世城下町名古屋の形成について」

出典：『図集 日本都市史』,東京大学出版会, 1993

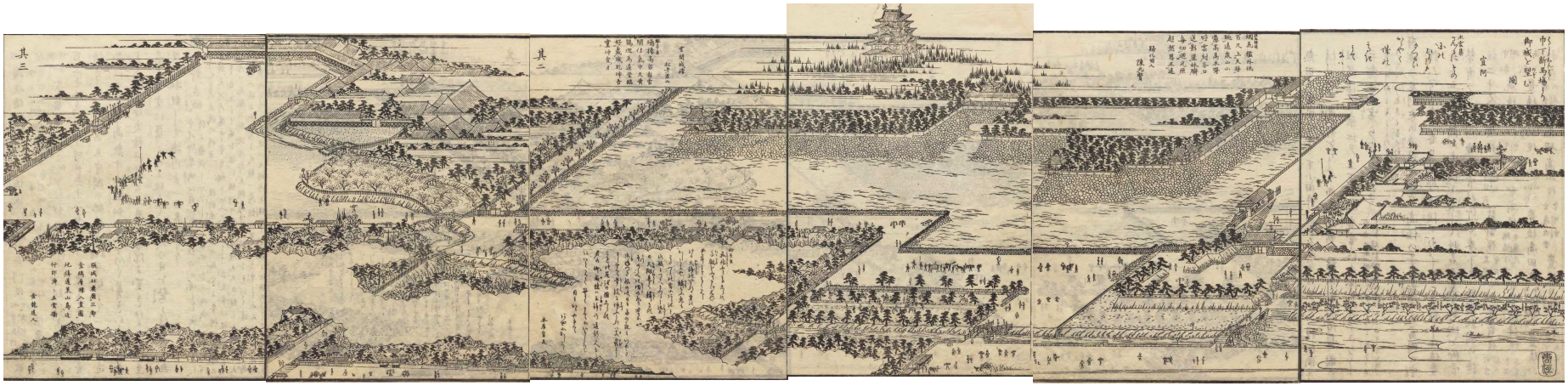
https://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/cmsfiles/contents/0000054/54494/1-1_p5-30.pdf

名古屋城・三の丸

出典：『城と城下町３ 名古屋』監修・林董一

徳川美術館蔵『名古屋井熱田図』部分

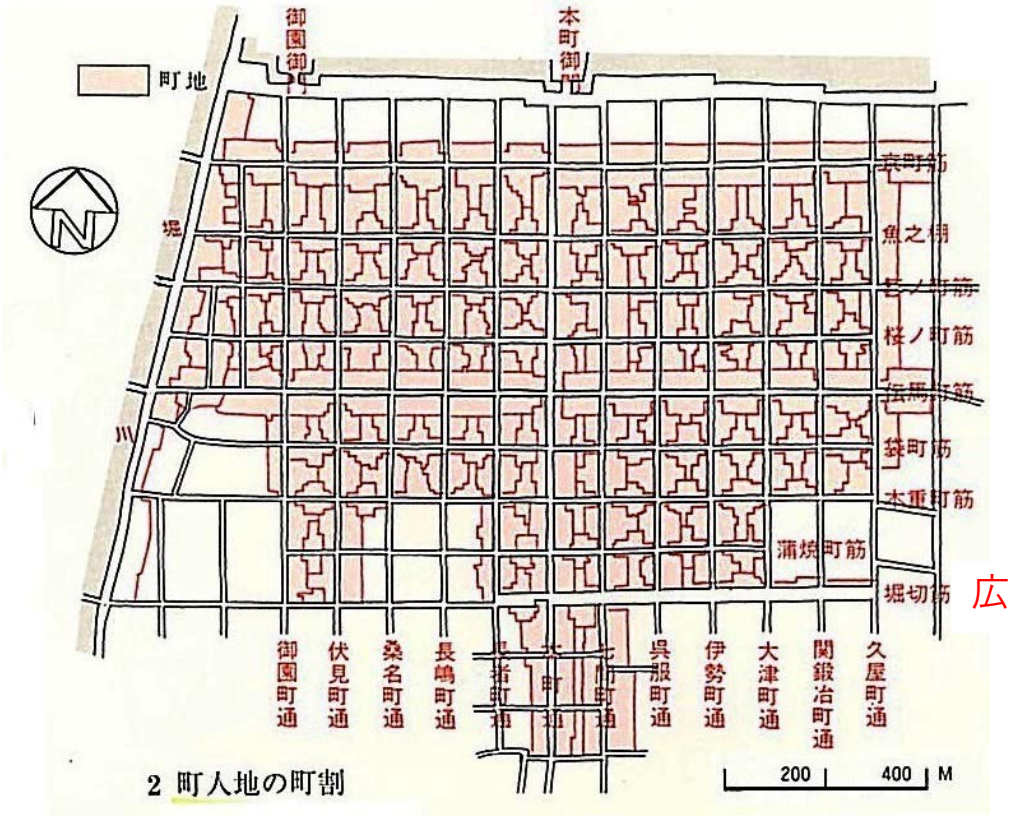
名古屋城



焼失前の名古屋城と本丸御殿

復元された本丸御殿

町人地の町割



出典：『図集 日本都市史』,東京大学出版会, 1993

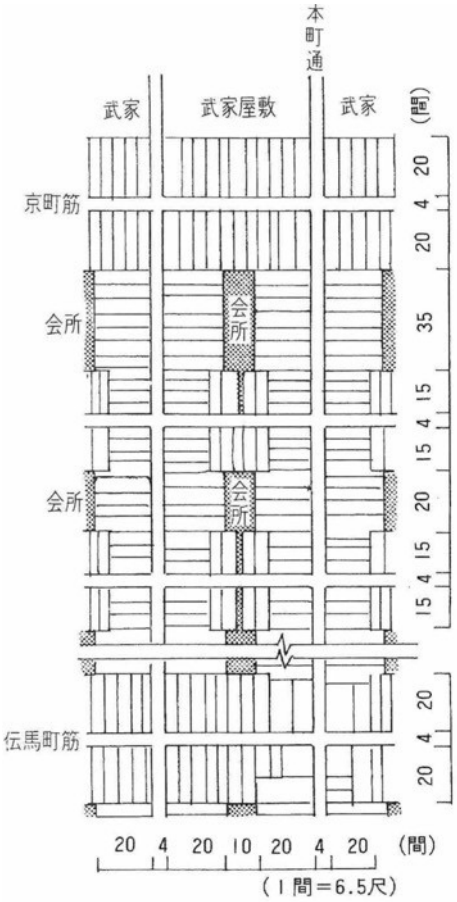
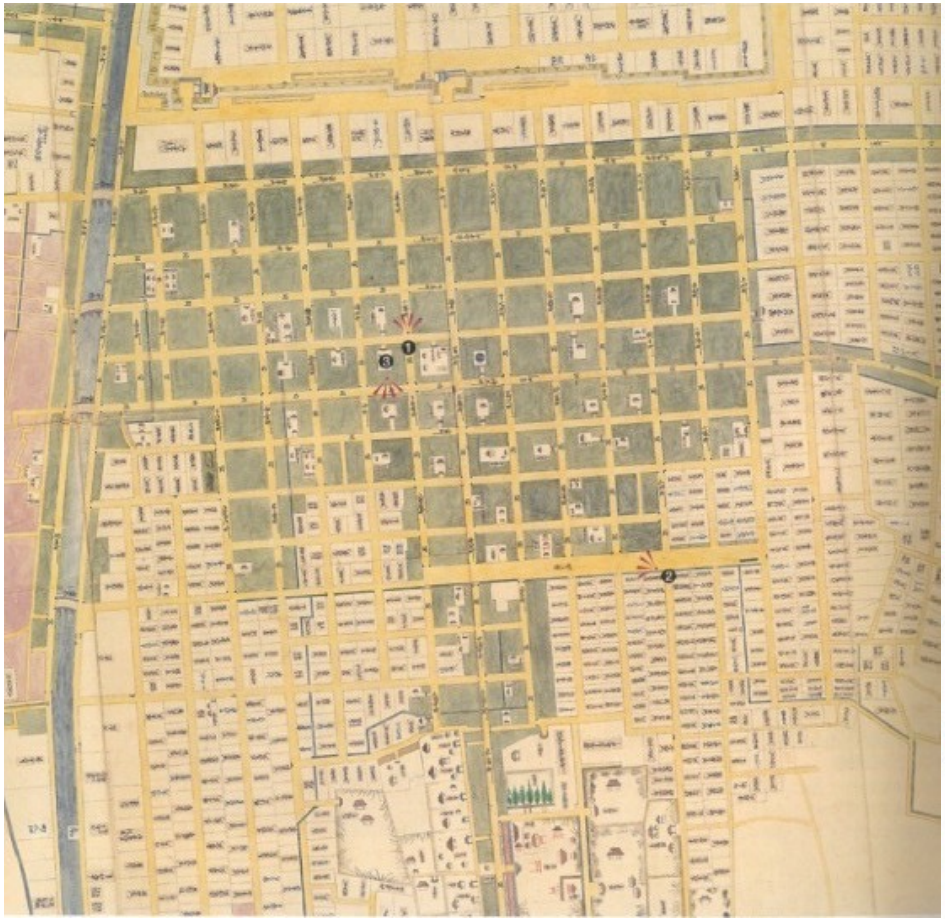


図9　名古屋城下の碁盤割模式図
(名古屋市『新修名古屋市史 第3巻』1999年による)

碁盤目状の町割。御園町から久屋町の東西11町，片端筋から堀切筋までの南北9町
1660年(万治３年)の大火の後、堀切筋は拡幅され広小路となった
碁盤割りの各街区は50間四方(１間＝６尺５寸)　街路を含み54間=約100ｍ
道に沿って間口が狭く奥行きの深い町屋が並び、
街区の中央には「会所(閑所)」と呼ばれる空地(寺社等)をもつ

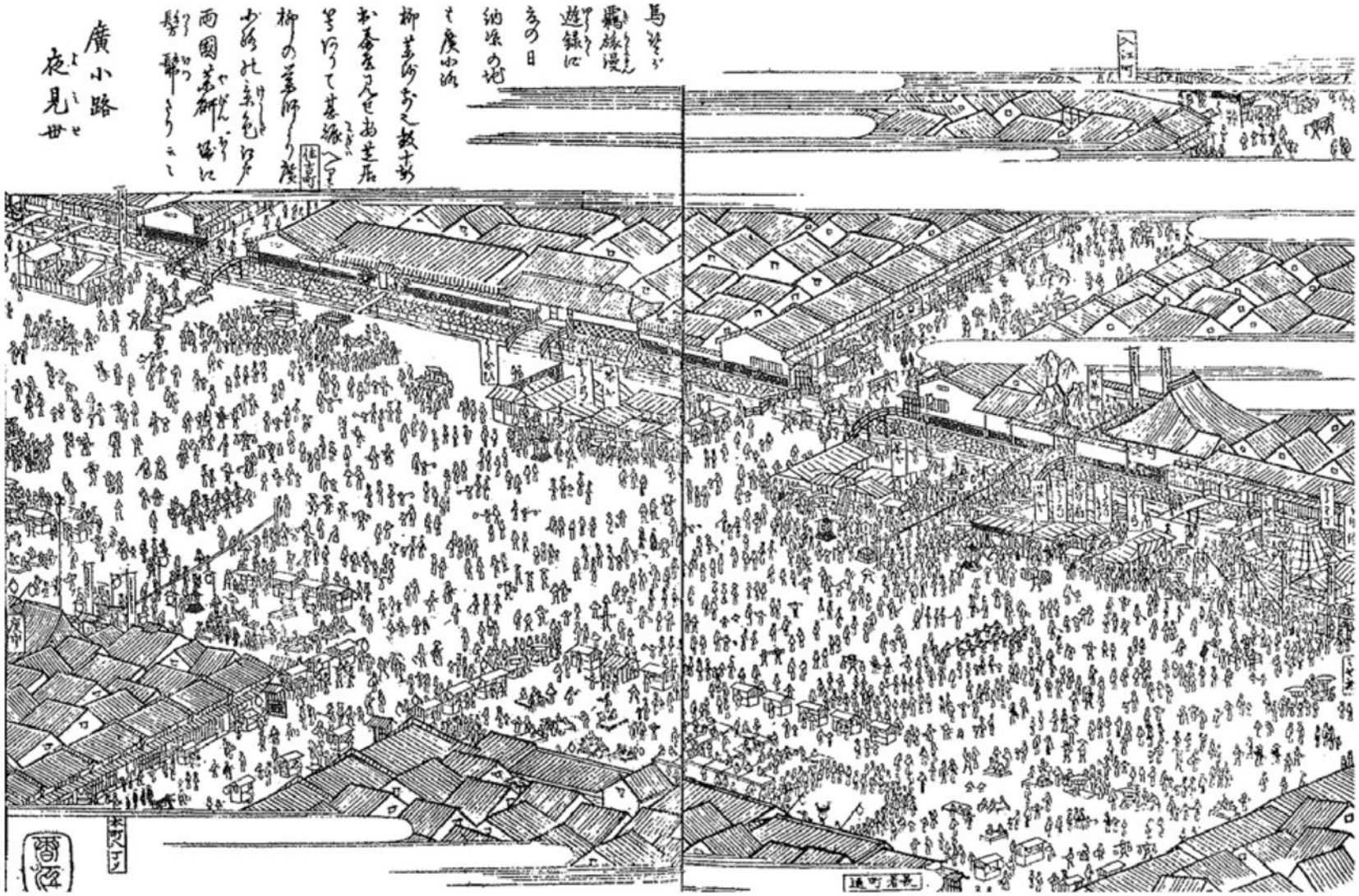
町人地～本町通周辺

出典：『城と城下町３ 名古屋』監修･林董一

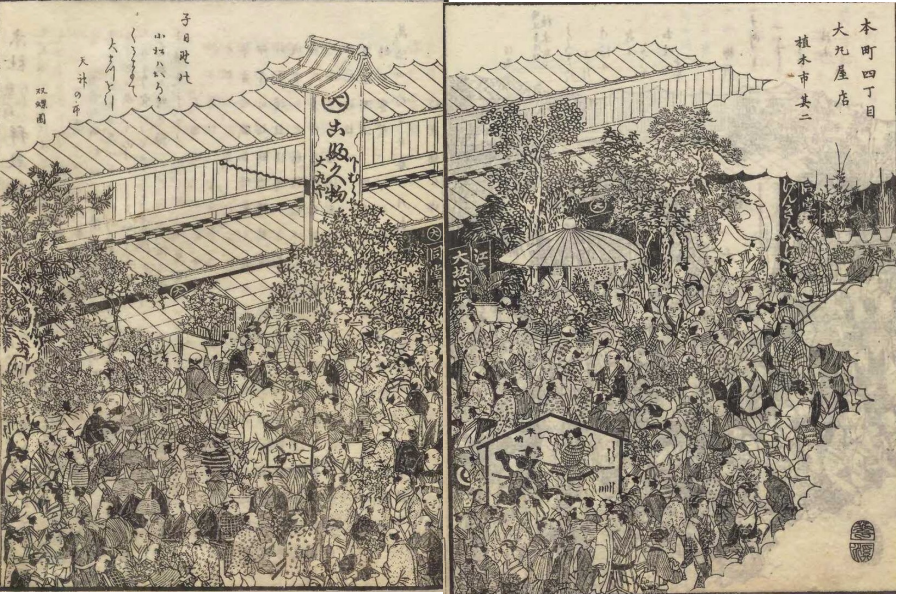


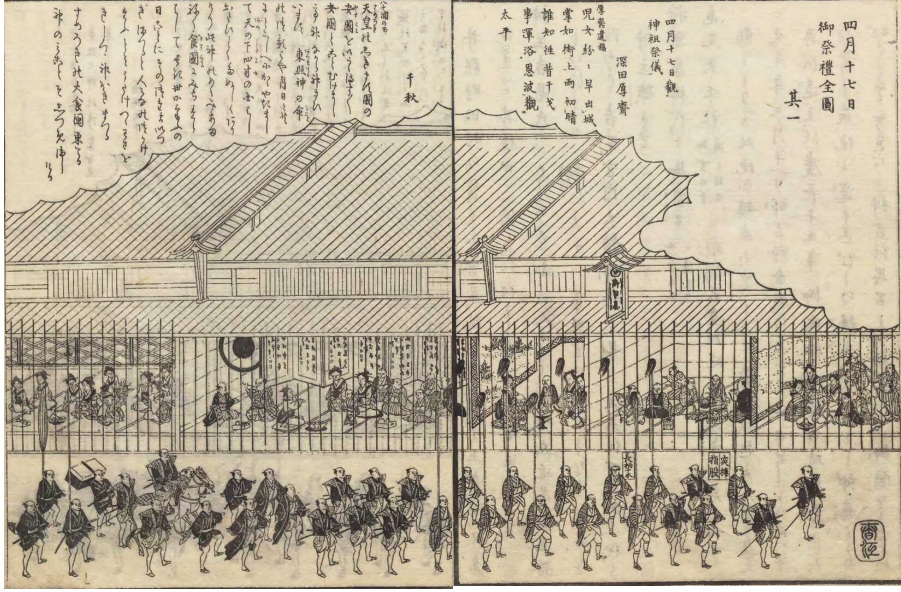
徳川美術館蔵『名古屋井熱田図』部分

広小路夜見世「尾張名所図会」

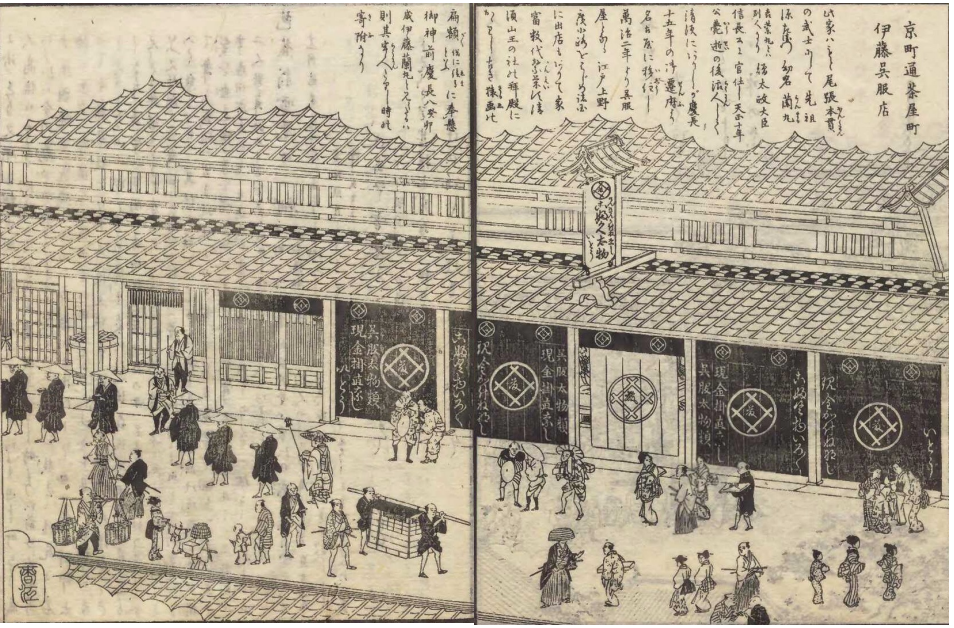


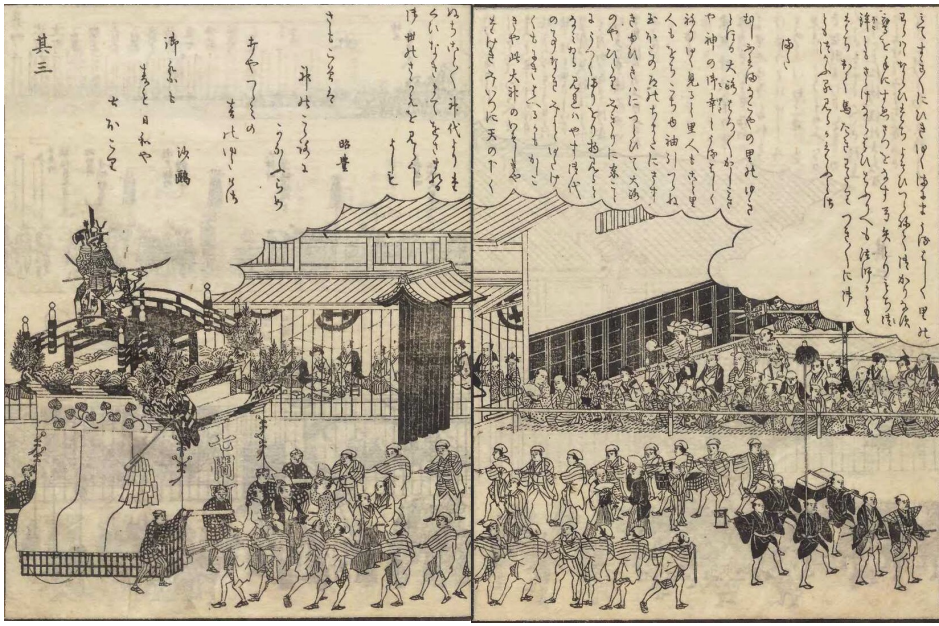
尾張名所図会：広小路夜見世



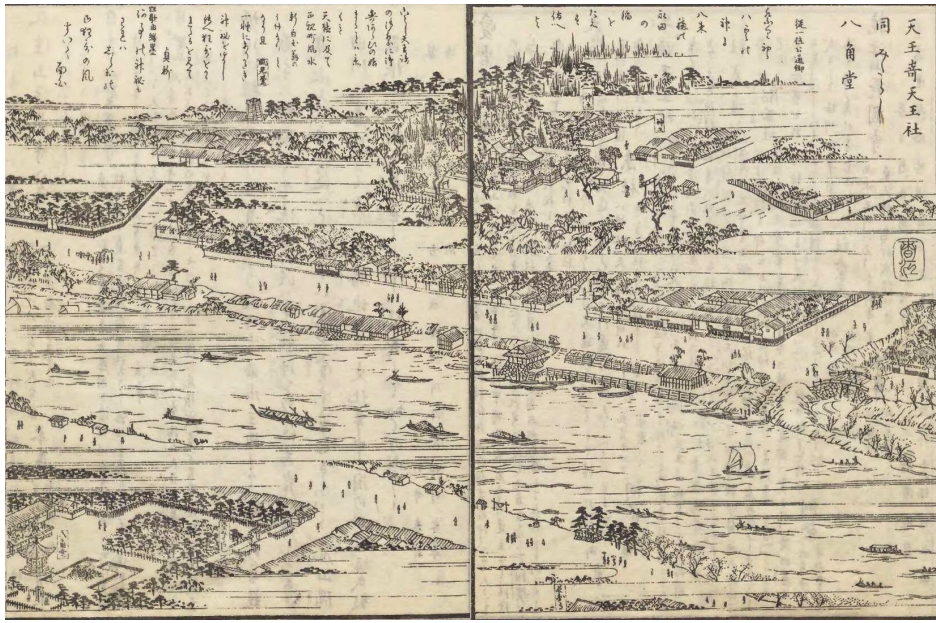


本町通





堀川

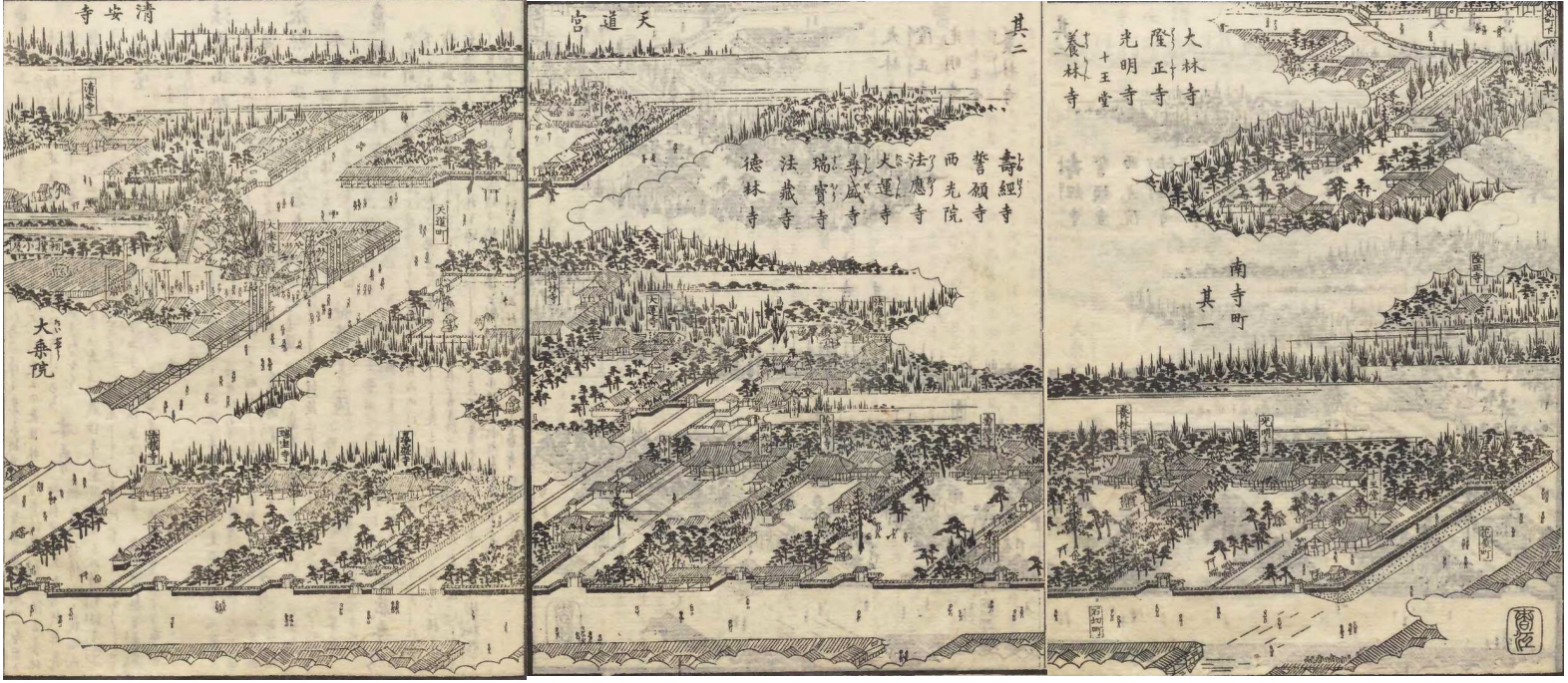


南寺町～大須周辺

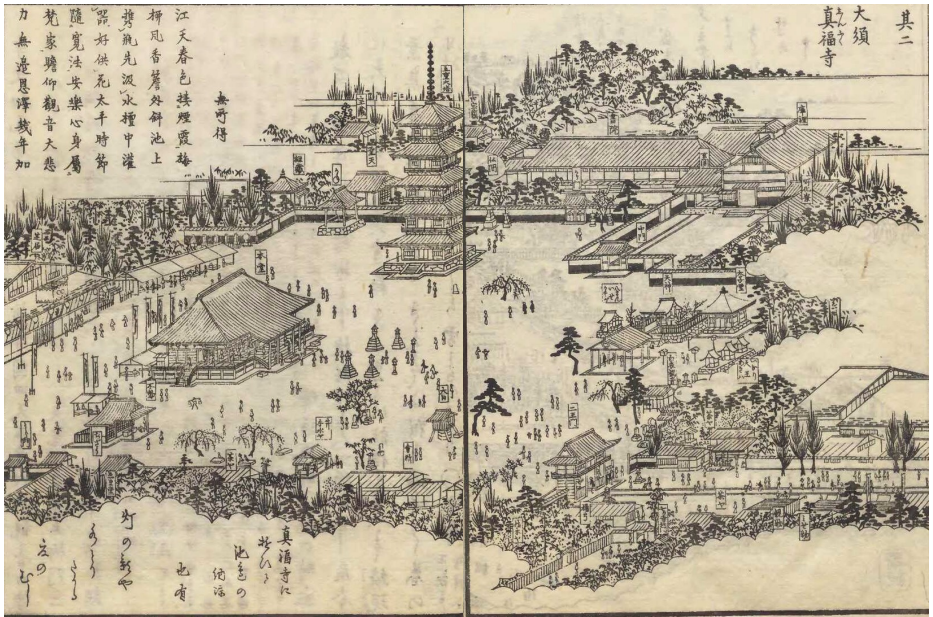
出典：『城と城下町３ 名古屋』監修･林董一

徳川美術館蔵『名古屋井熱田図』部分

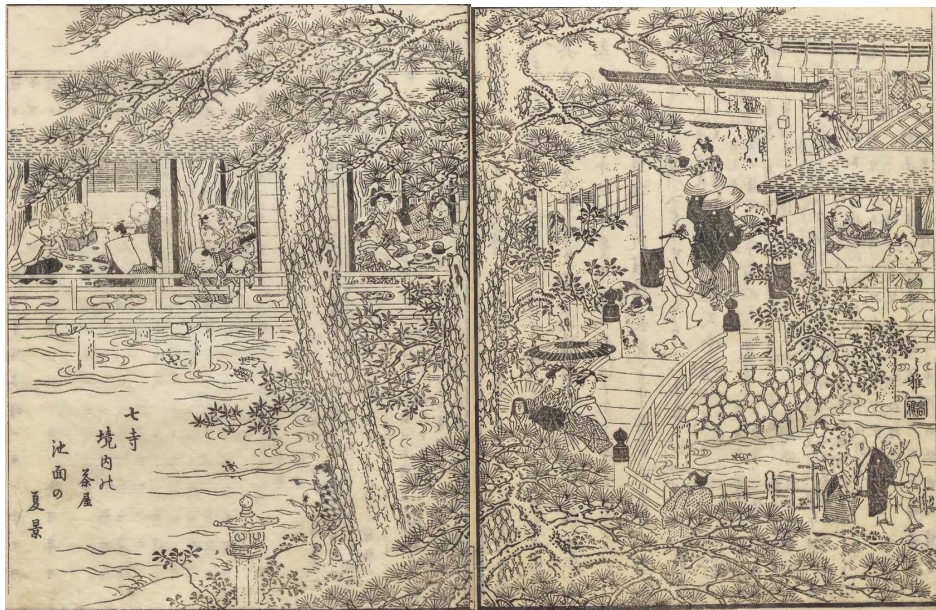
南寺町



真福寺(大須観音)



七寺境内の茶屋



江戸時代の都市構造

凡例

武家地	旧街道	推定海岸線(江戸初期)	主な河川
社寺地	主な生活道路	海岸線(明治24年)	主な城跡等
町人地	大木戸	新田開発	現在の区界
	宿場町等		

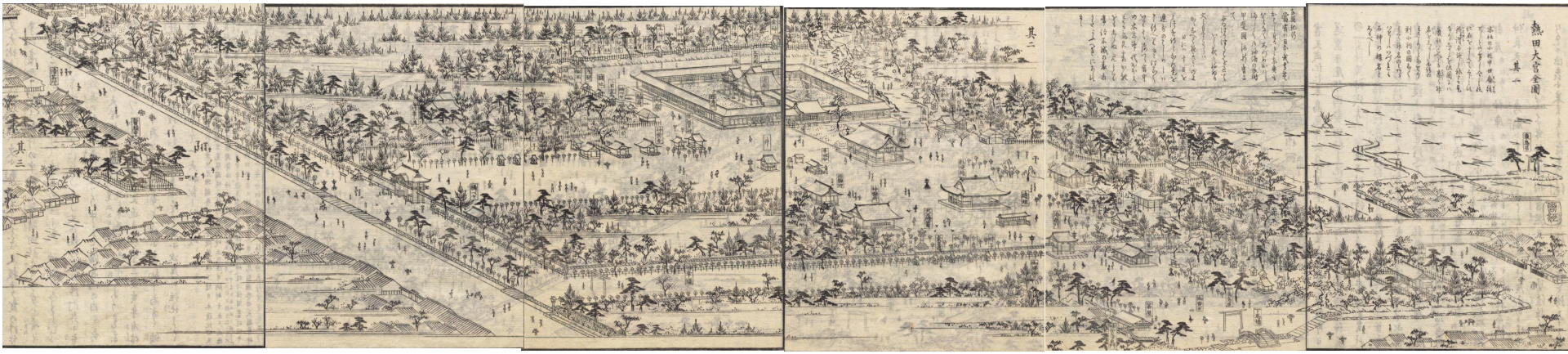
出典：「名古屋市歴史まちづくり戦略」2011

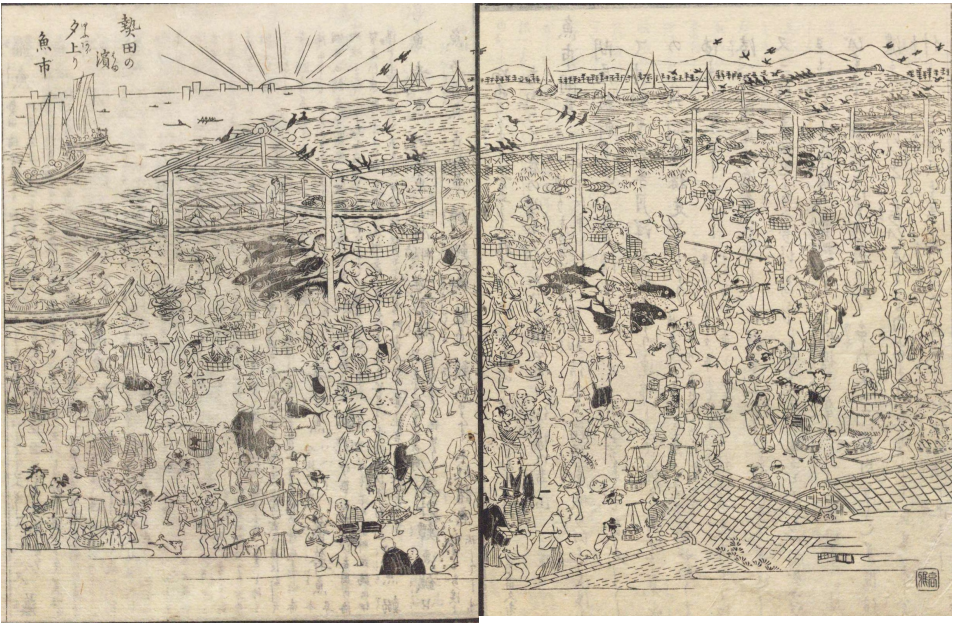
熱田

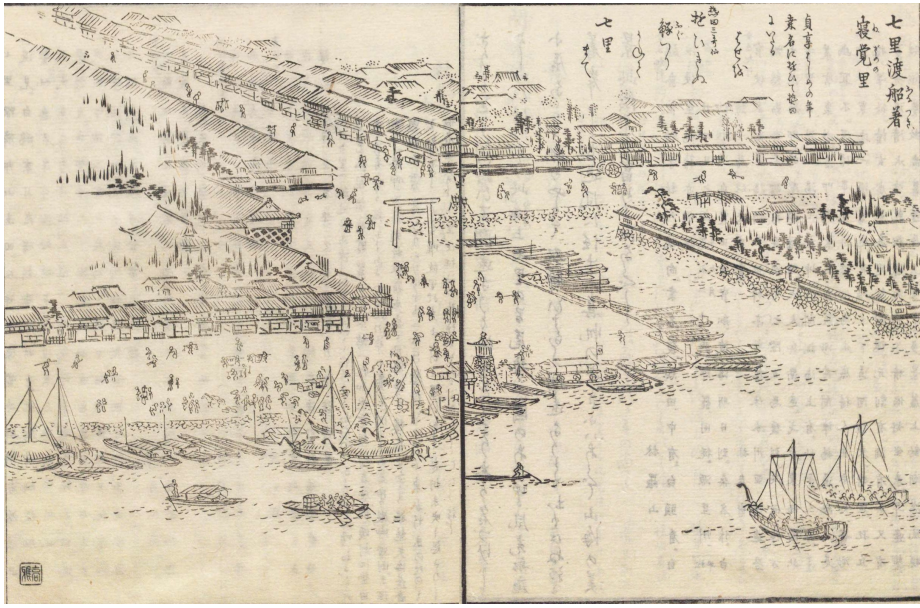
出典：『城と城下町３ 名古屋』監修・林董一

徳川美術館蔵『名古屋井熱田図』部分

熱田神宮

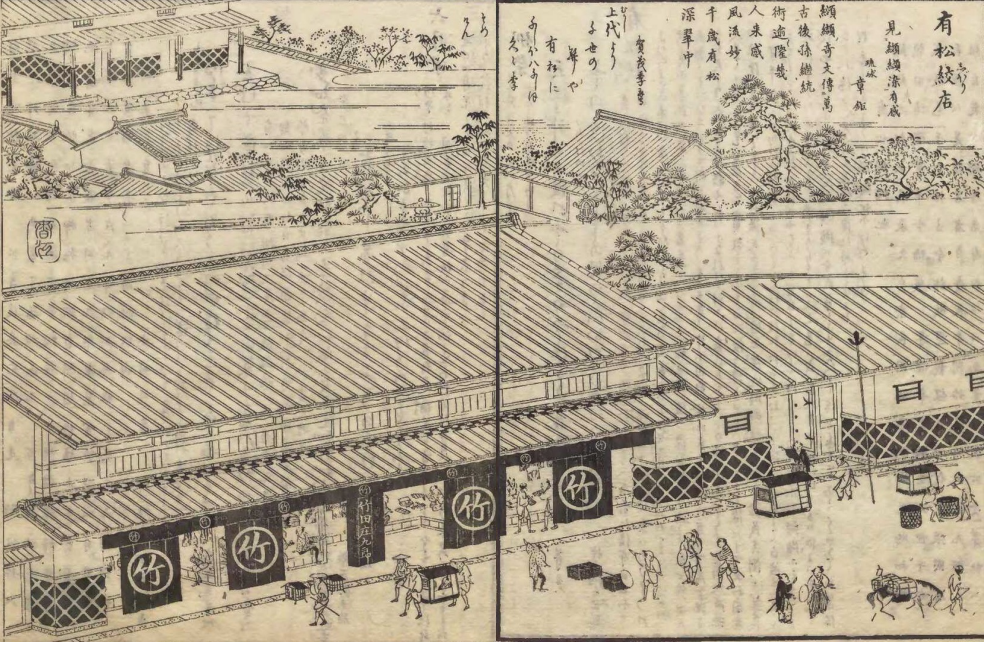




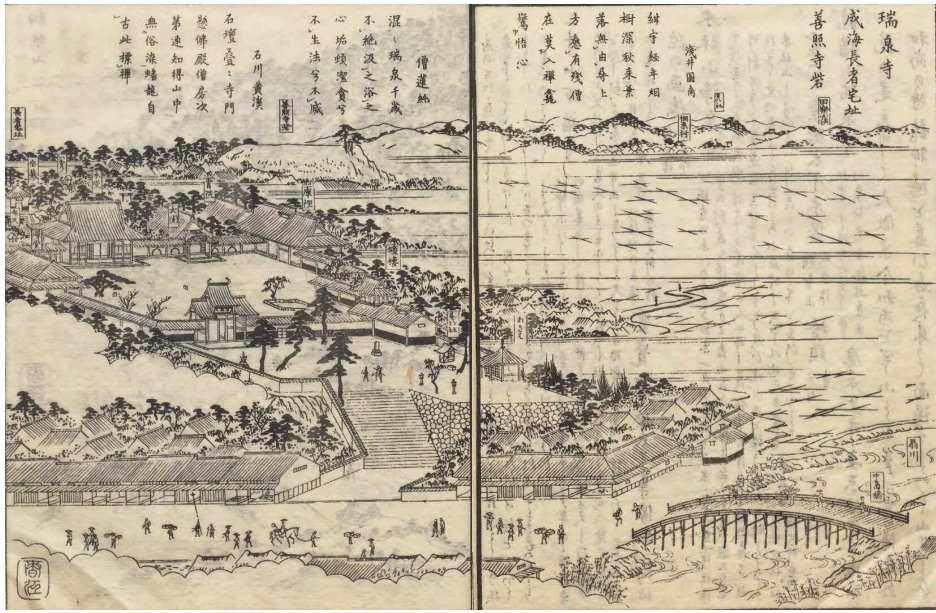


熱田　　七里の渡

宿場町・有松



2016（平成28）年
伝統的建造物群保存地区に指定



３.近代・名古屋の発展

近代の名古屋 - 1

1878(明治11)年

　区長：吉田禄在

　東海道線誘致　笹島停車場

　広小路通の延伸

　覚王山日泰寺創建に尽力

1889(明治22)年　市町村制

　名古屋市 誕生

　東海道線全線開通

1891(明治24)年

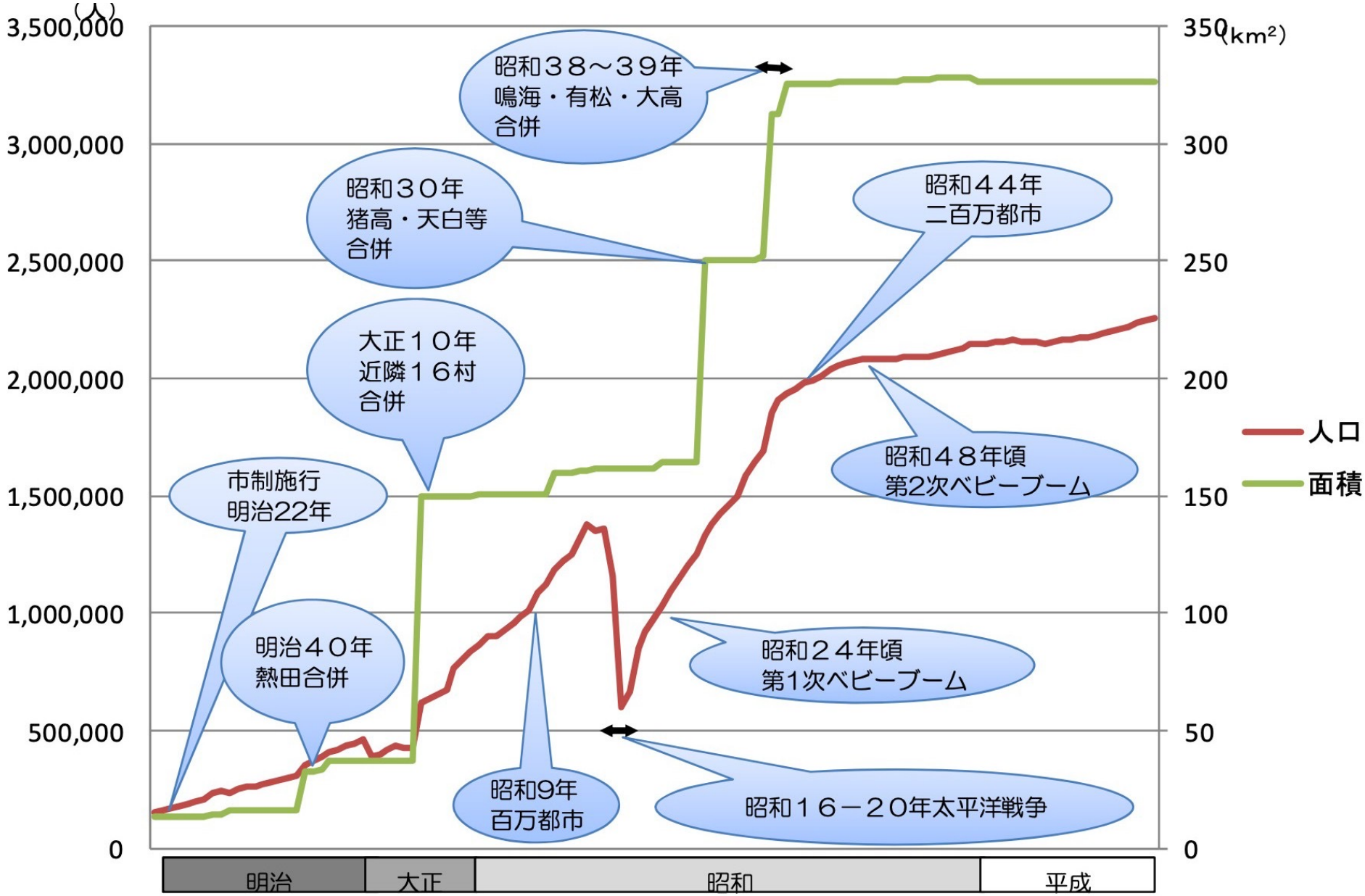
　濃尾地震による甚大な被害

近代の名古屋－2

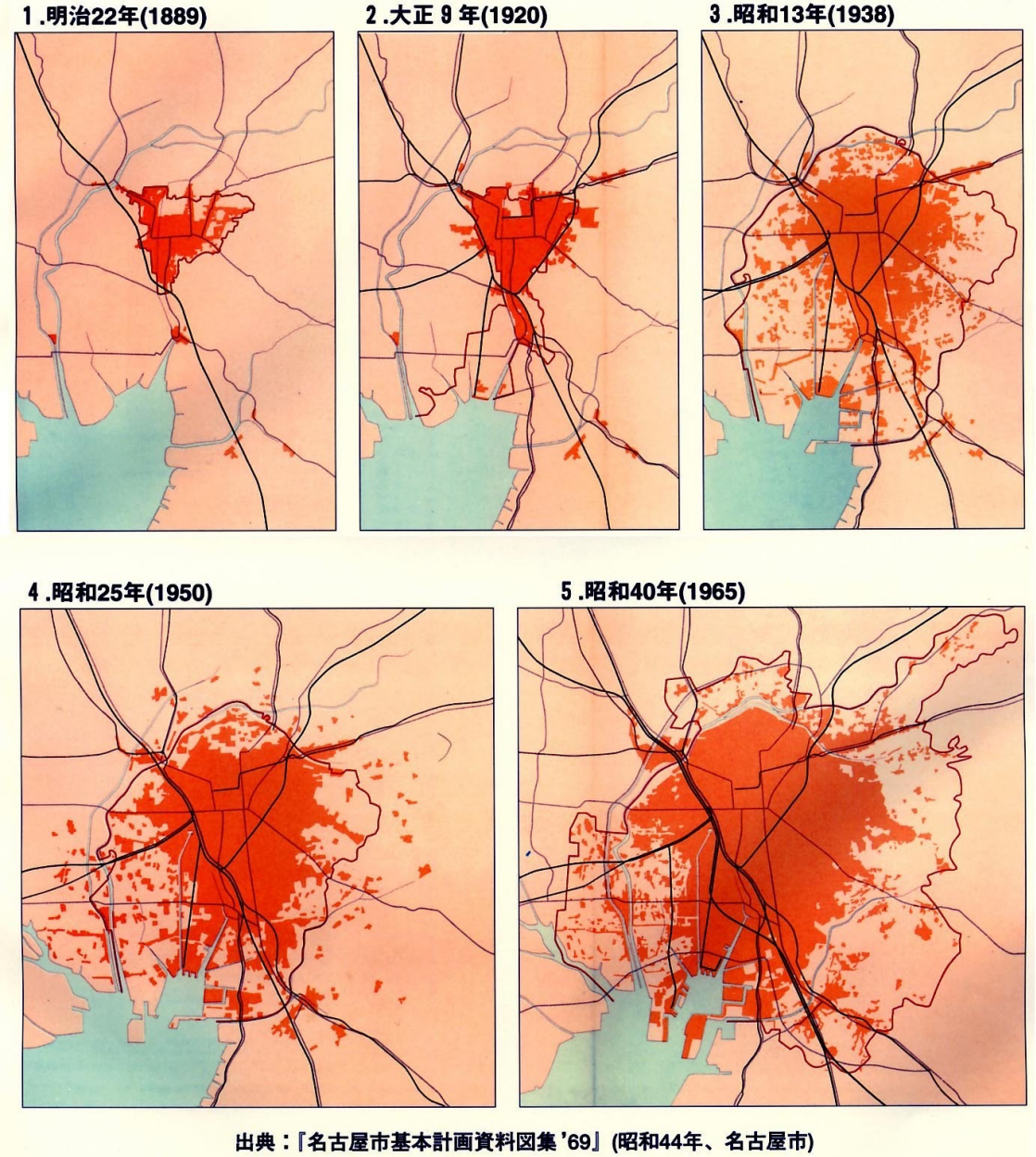
1907(明治40)年
　熱田町を合併
　名古屋港開港

1905(明治38年)
　新堀川（精進川）開削
→明治42年　鶴舞公園
1910(明治43)年
　関西府県連合共進会

市制施行以来の名古屋市人口・面積の推移



名古屋市街地の変化



出典：『名古屋市基本計画資料図集'69』(昭和44年、名古屋市)

明治43年
関西府県連合共進会
（鶴舞公園）

https://history.nagoya-cci.or.jp/meiji/h4.html

名古屋大学の
3キャンパス

東山地区

大幸地区

鶴舞地区

産業都市としての開花　都市計画のまち名古屋

1919(大正8)年　(旧)都市計画法・市街地建築物法

石川栄耀（ひであき）　←　130万人都市を想定

- 都市計画区域指定　防火地区指定
- 用途地域指定　街路計画決定
- 公園計画決定（日本初）25公園
- 高速度鉄道（市電の限界）
- 中川運河開削

1899(明治32)年　旧耕地整理組合法を準用した区画整理
　第1号　下之一色地区　～1935までに102地区が施行
1925(大正14)年　都市計画法に基づく土地区画整理事業

1924（大正13）年
用途地域指定図

用途地域とは
計画的な市街地を形成するために用途に応じて分けられた地域
建てられる建物の種類や大きさなどを規定

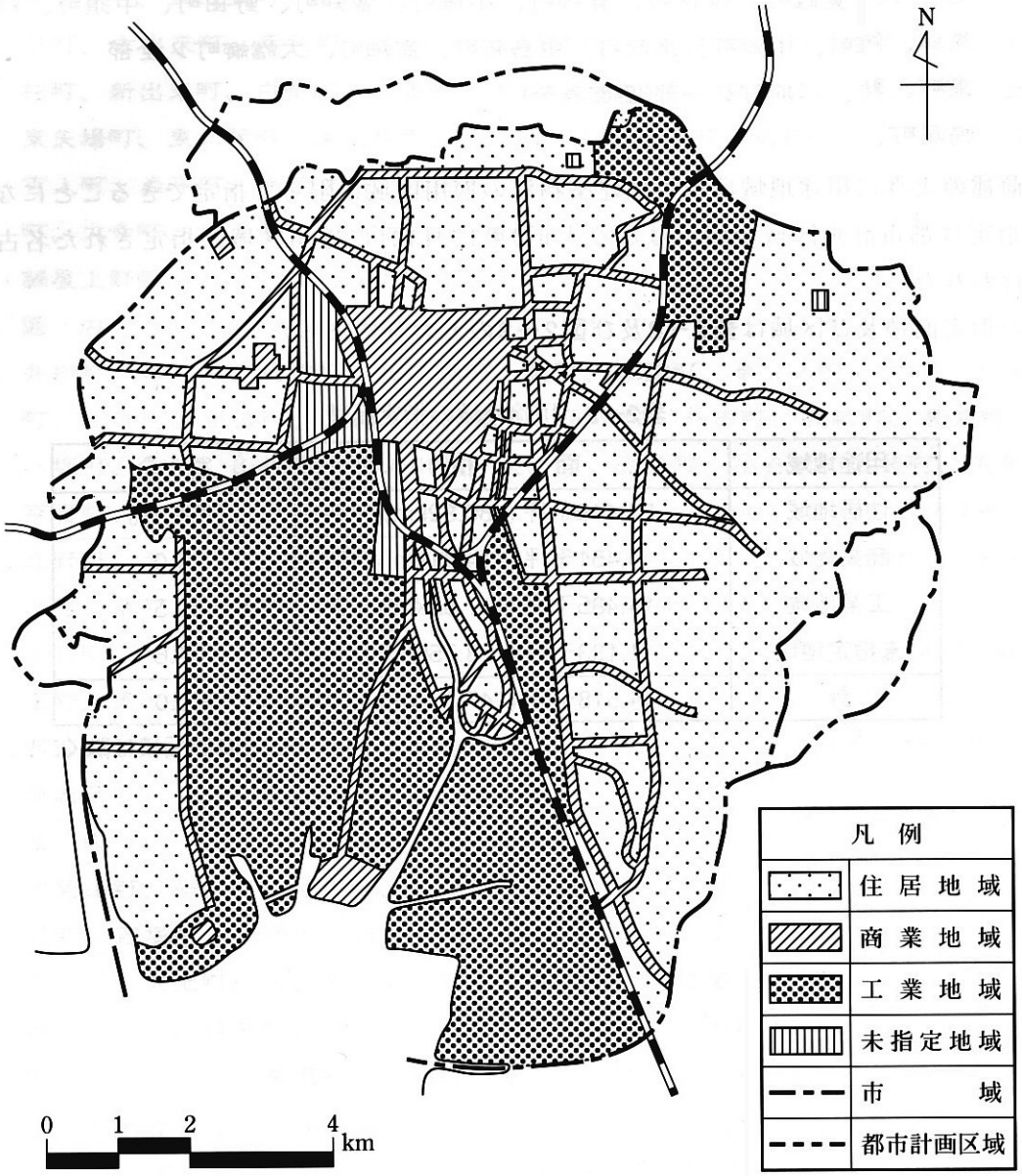
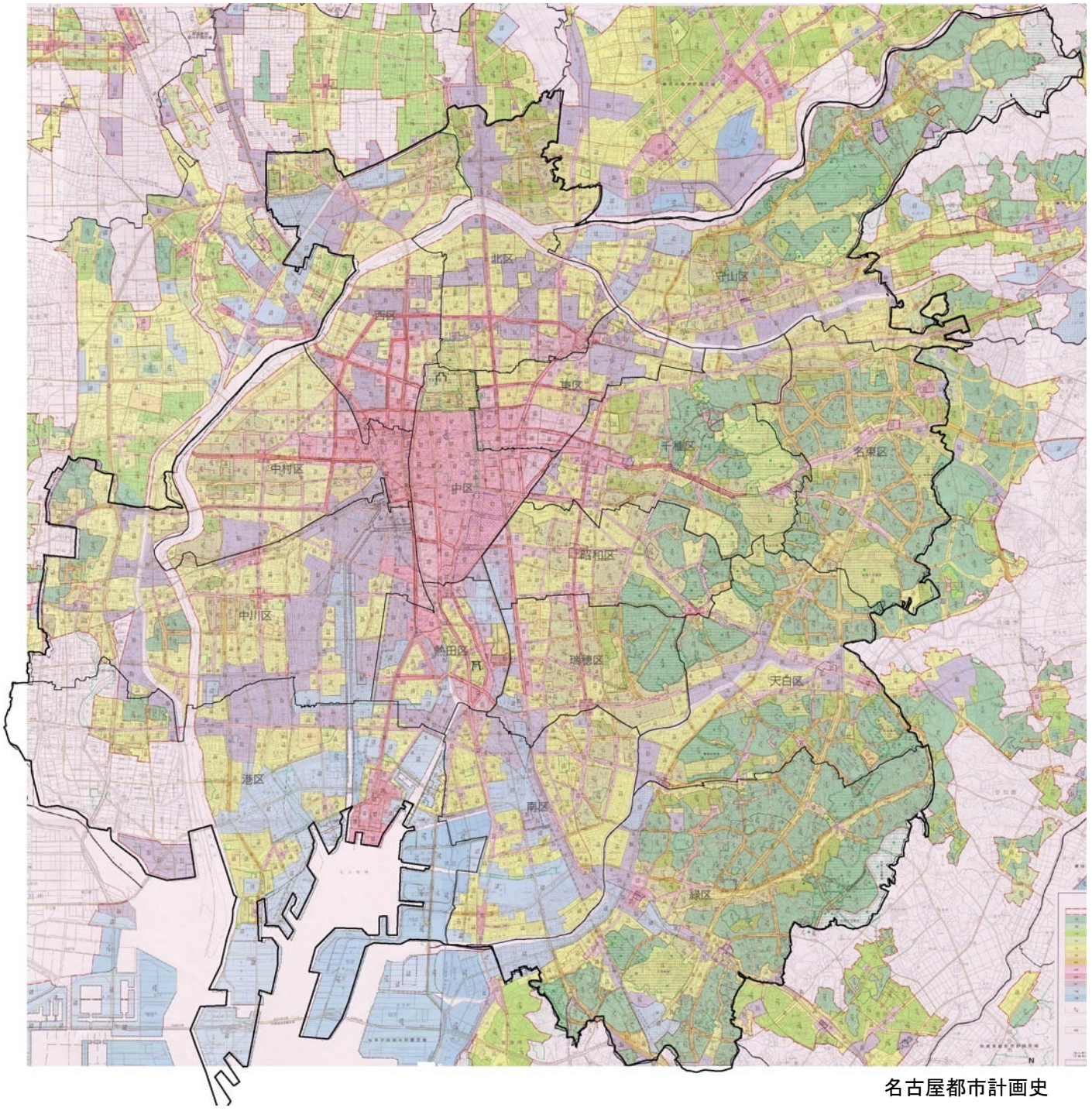


図2－3　用途地域指定図(大正13年当初指定)

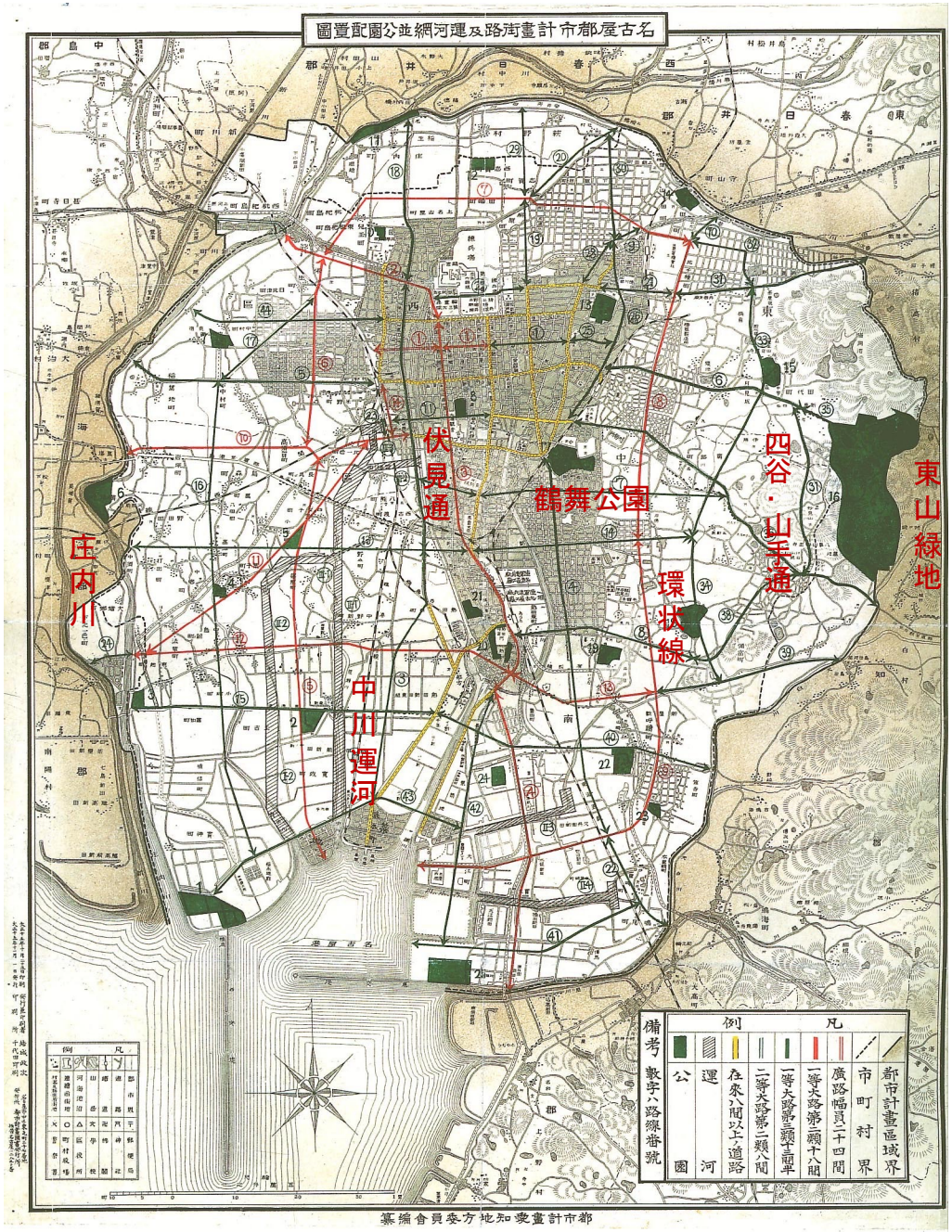
名古屋都市計画史

都市計画図
用途地域
（現代）



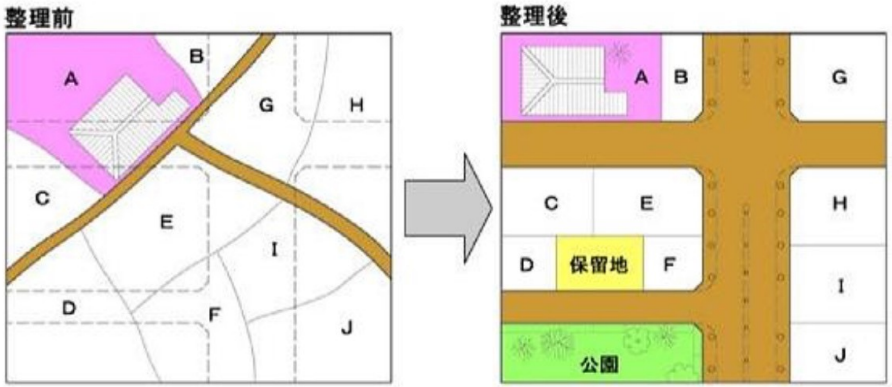
名古屋都市計画史

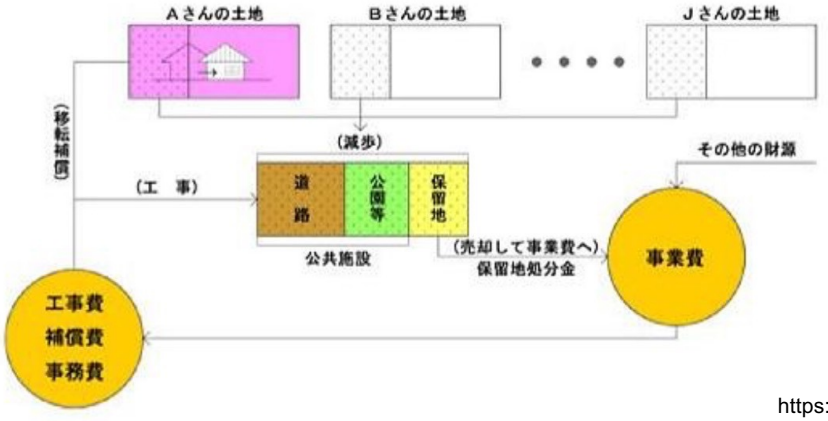
1926（大正15）年
都市計画街路及運河網
並公園配置図



土地区画整理事業とは

　土地区画整理事業は、道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図る事業。
　公共施設が不十分な区域では、地権者からその権利に応じて少しずつ土地を提供してもらい（減歩）、この土地を道路・公園などの公共用地が増える分に充てる他、その一部を売却し事業資金の一部に充てる事業制度。





https://www.city.nagoya.jp/jutakutoshi/page/0000043313.html

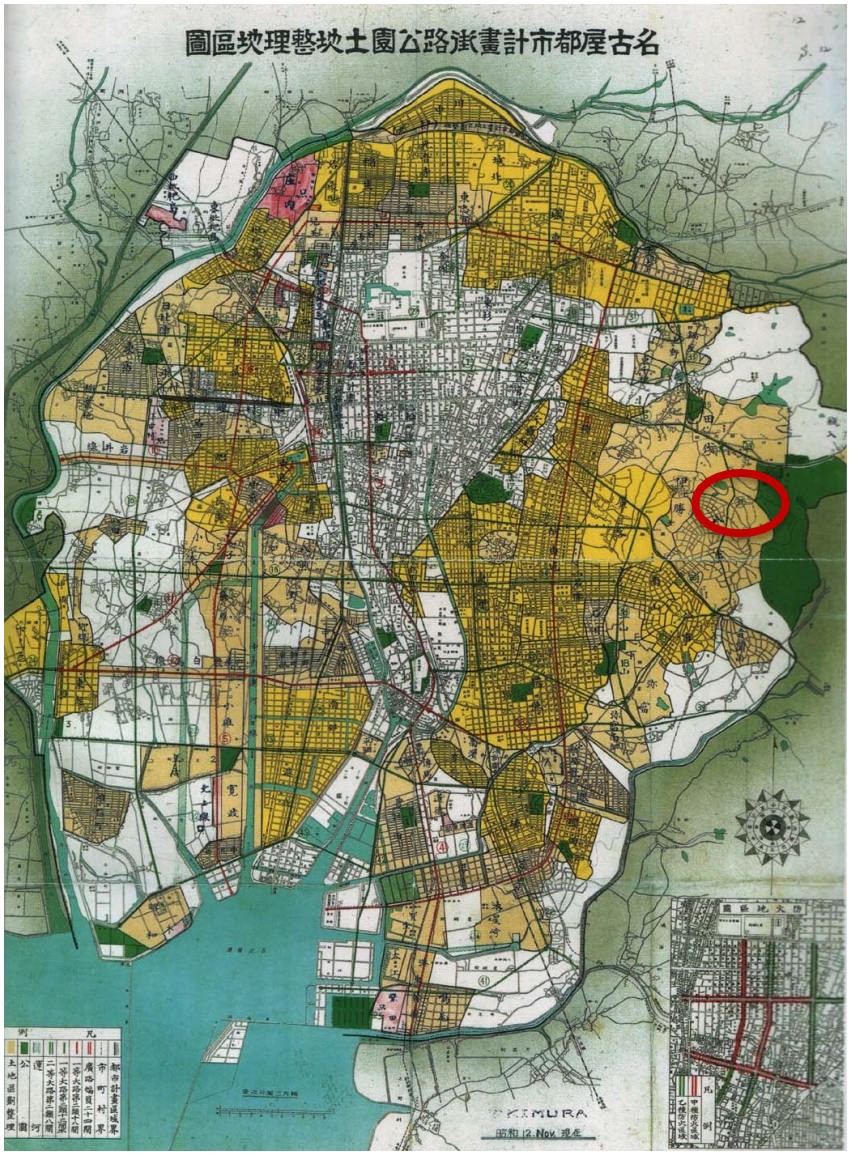
戦前期名古屋の土地区画整理事業

石川栄耀ら有能な官僚技術者による政策的誘導

土地博覧会等地区に応じたさまざまな発展策

郊外地主の組合組織化
積極的な受入れ
↑宅地開発による地価上昇

街路網の整備
公園の整備



名古屋都市計画街路公園土地整理地区図
(1937・昭和12年)

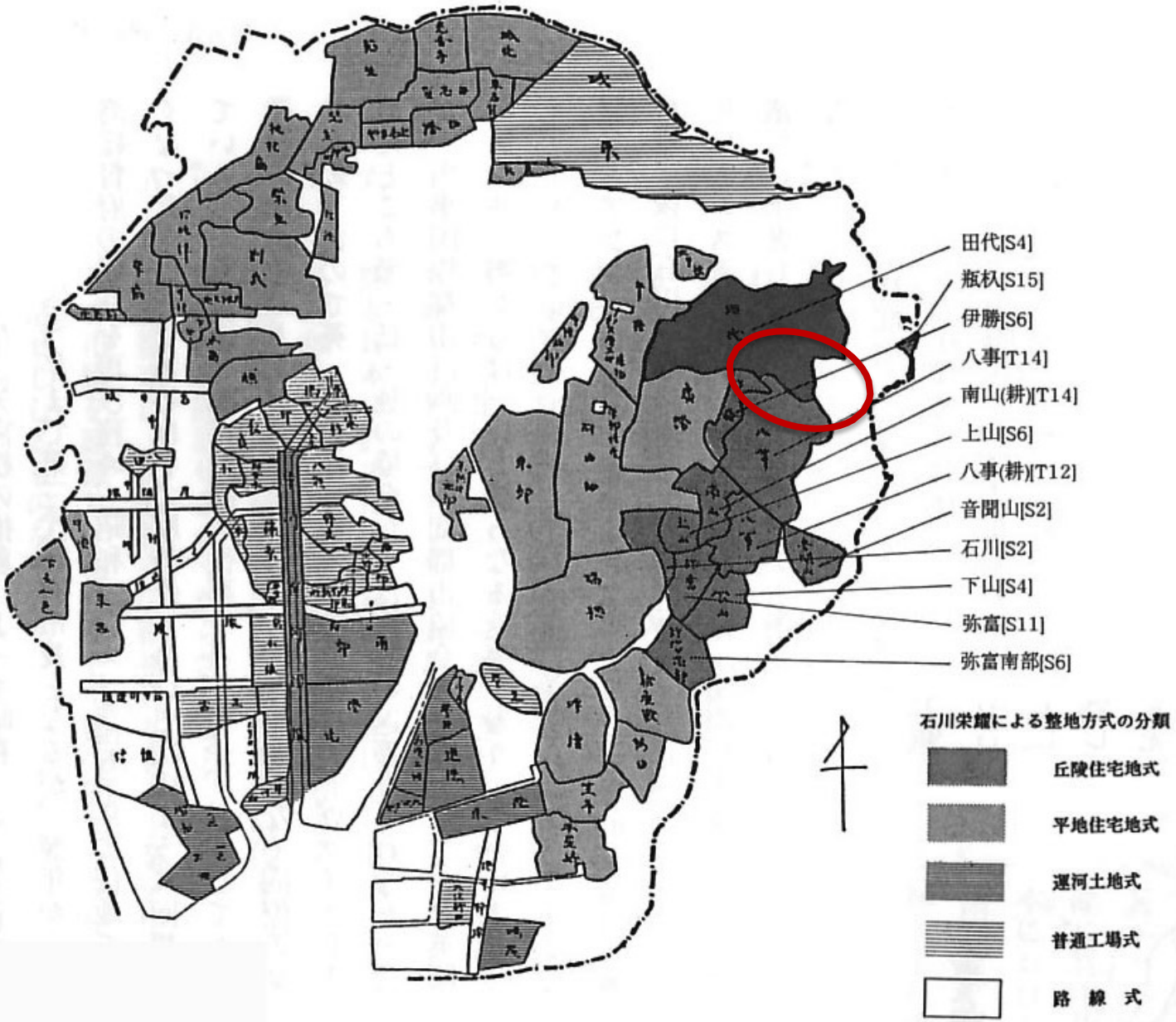


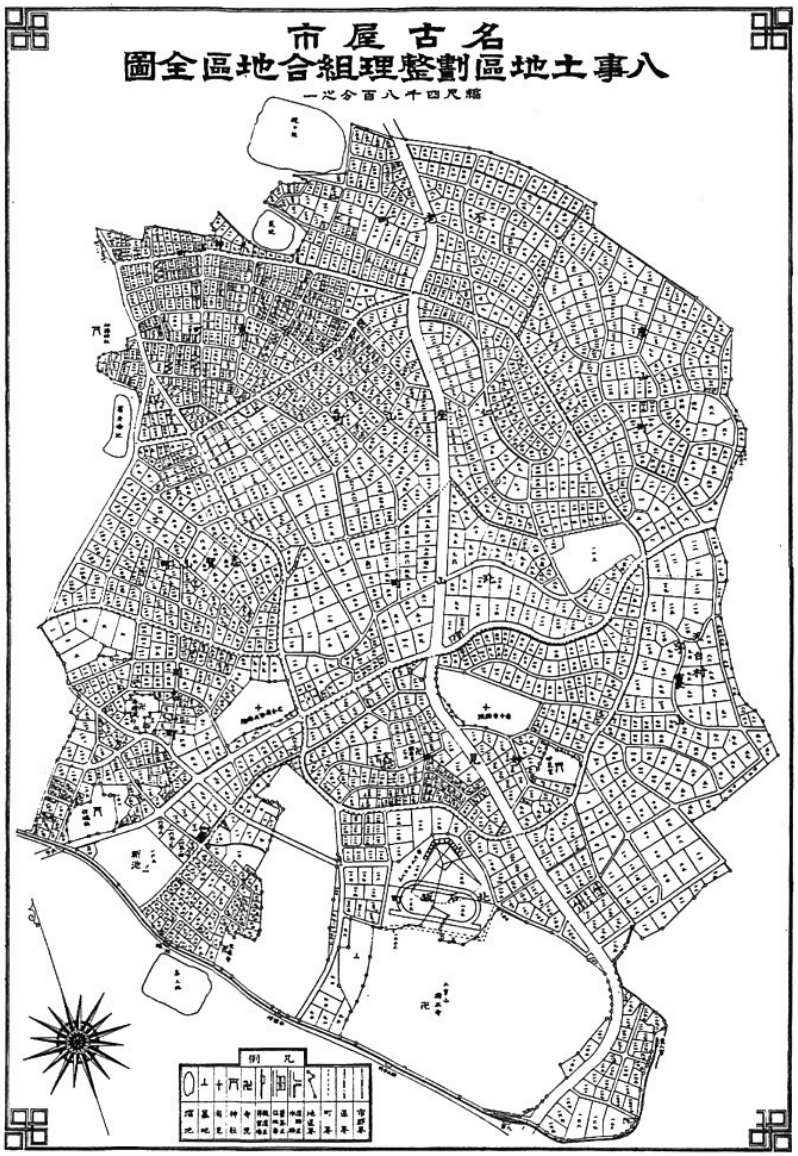
図1　整地方式から見た土地整理施工図（『都市問題』第9巻第4号，1929年4月，p.70をもとに筆者作成）

土地区画整理組合による土地の寄附

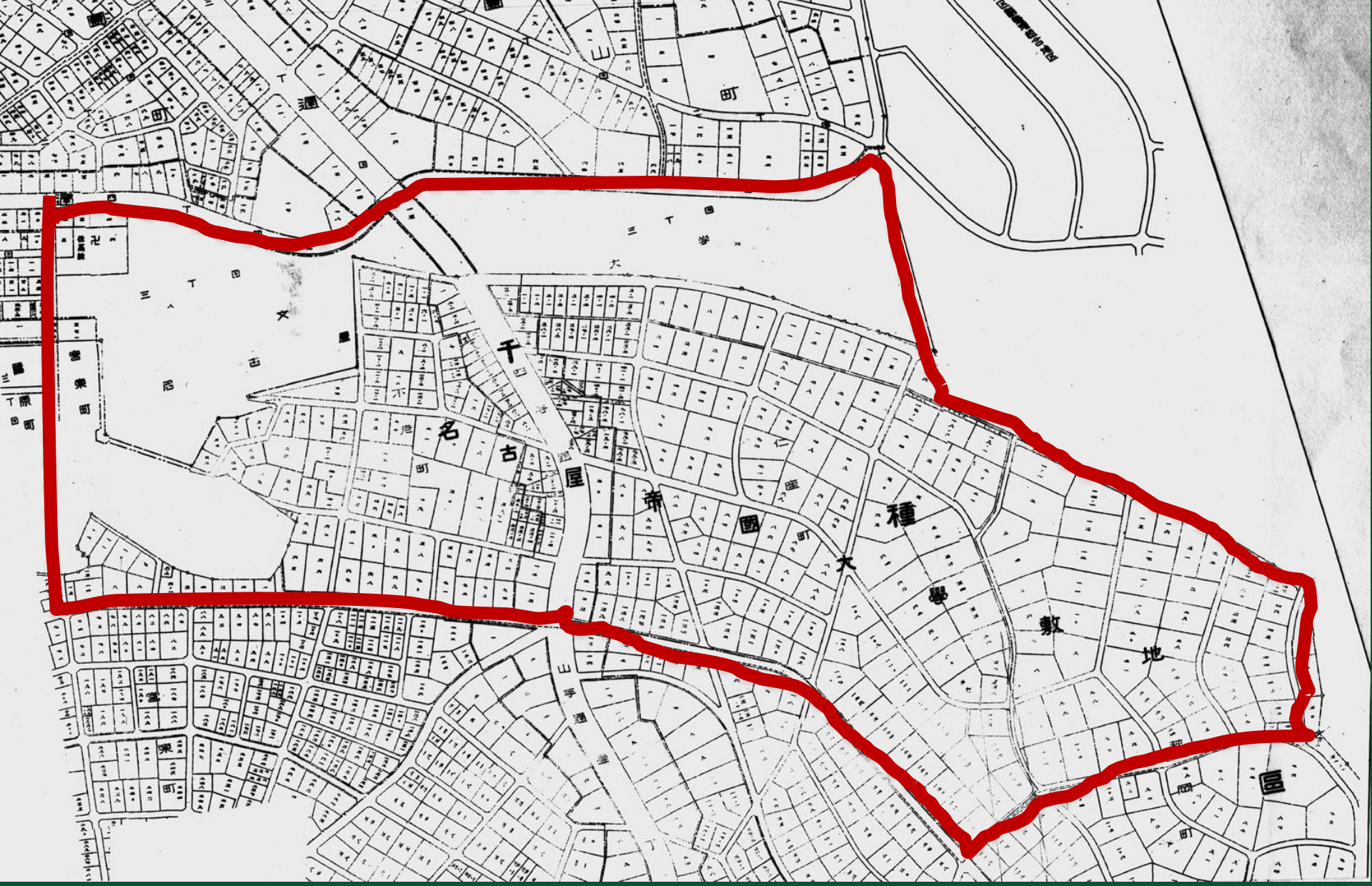
八事・田代・伊勝・東山の
４つの土地区画整理組合が、
名古屋帝国大学の用地として
土地(約53万㎡)を無償寄附
1940（昭和15年）

※八事土地区画整理事業 1932

特筆すべき都市デザイン
山林都市　八事
地形・水系・名所の取り込み



名古屋市八事土地整理組合地区全図
(1932･昭和7年)



名古屋帝国大学予定地

「名古屋市八事土地区画整理組合確定図」「名古屋市田代土地区画整理組合地区確定図」より

木方十根 氏 作成

名古屋帝国大学計画案（昭和17年・1942） 広川誠三郎

東京都公文書館蔵 内田祥三資料『名古屋大国大学』、昭和17年所収
木方十根， 再考･創設期の東山キャンパス計画」，名古屋大学史紀要，第12号，2004.3,

名古屋帝国大学
開学記念絵葉がき
（1943）

米軍撮影空中写真（1946）

©木方十根

豊田講堂 1960　設計：槇文彦

写真集
名古屋大学の歴史1871~1991

豊田講堂完成直後の
東山キャンパス
1960

豊田講堂上部から
名古屋都心をみる

みんなでつくり、みんなでつかう

東海機構プラットフォーム

設計：株式会社 小堀哲夫建築設計事務所（プロポーザル最優秀者）

大学・地域・企業など多様な「人」と「知」が集い、
将来を見据えた先進的で革新的な「教育の共創拠点」
地域/大学、地上/地下、屋内/屋外、理系/文系をつなぐハブとなる空間
東海国立大学機構を象徴する建築とランドスケープの創出

４.戦災と戦災復興事業

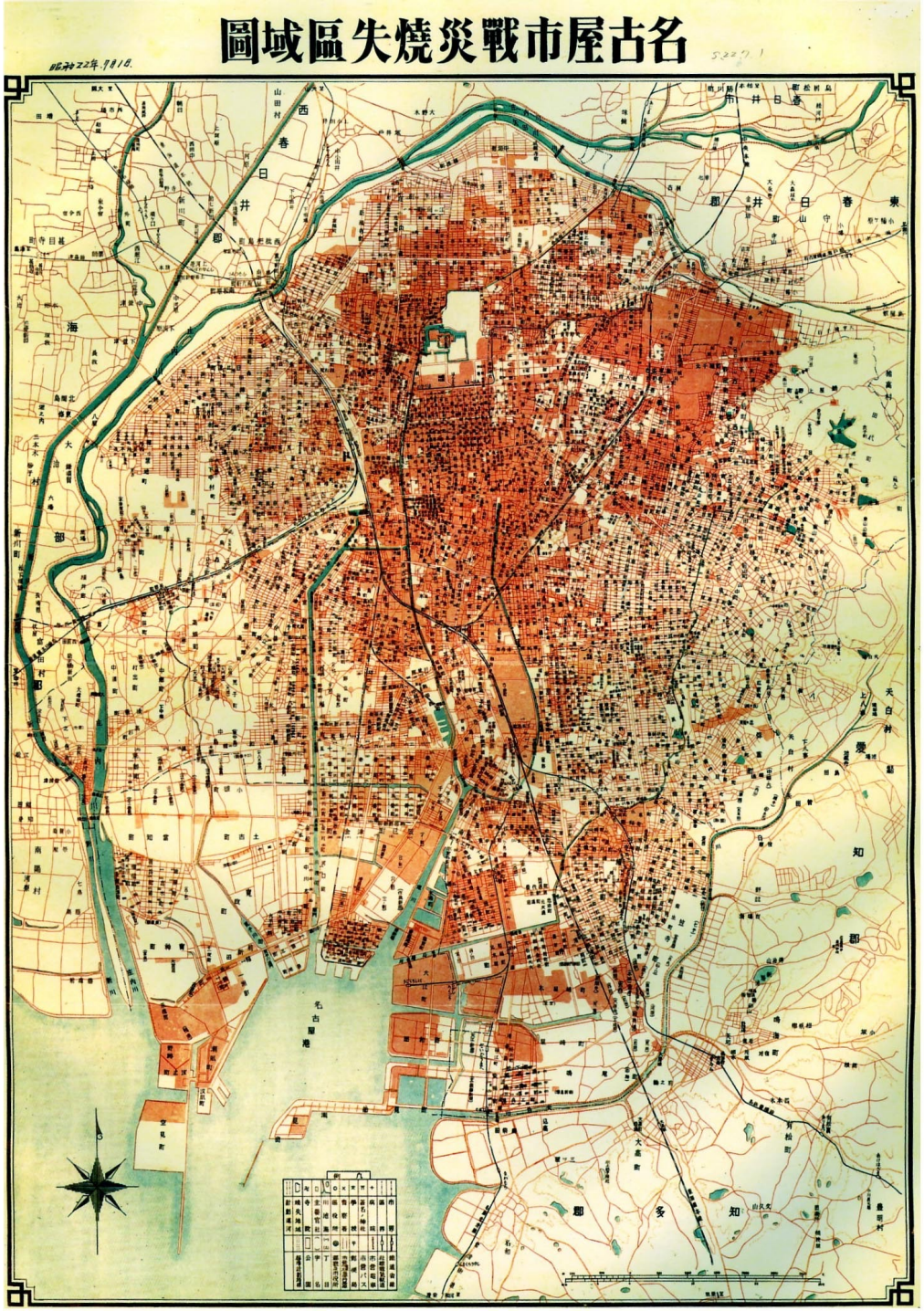
戦災焼失区域

一大軍需産業都市

罹災戸数13万5千戸
　全焼約11万戸
死者7802名
市域の3割が焼失

名古屋城など焼失

1944年の人口134万人が
1945年11月には60万人に

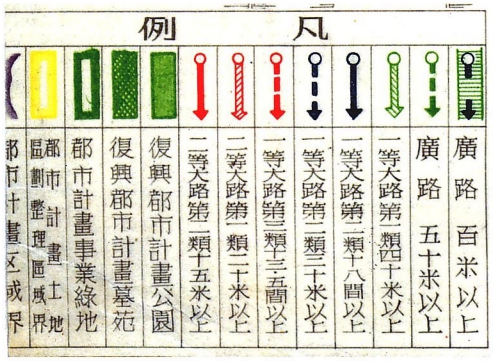


名古屋都市計画史（大正期～昭和44年）

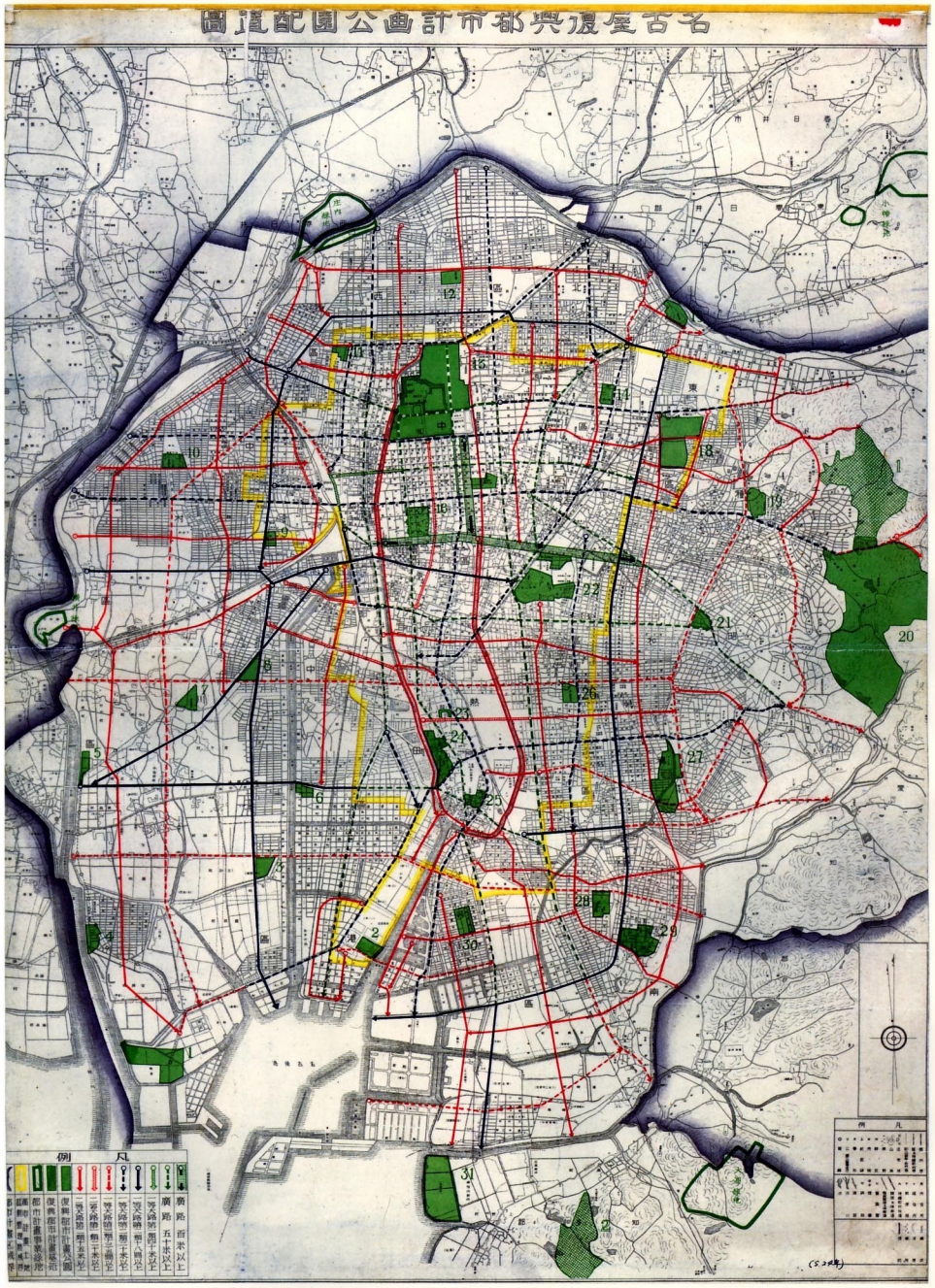
戦災復興事業

昭和20年9月
復興計画準備着手

建築制限　再建決議
復興調査会の設置



名古屋都市計画史（大正期～昭和44年）



大中京圏再建構想

1945(昭和20)年12月
田淵壽郎 復興局長

『戦災復興計画基本方針』

100ｍ道路2本,
50ｍ道路9本等の幹線道

平和公園への墓地移転

土地区画整理事業を実施手段に

60万人の人口が200万となることを目標に

昭和20年12月 6 日付けの中部日本新聞より

復興都市計画

昭和22年

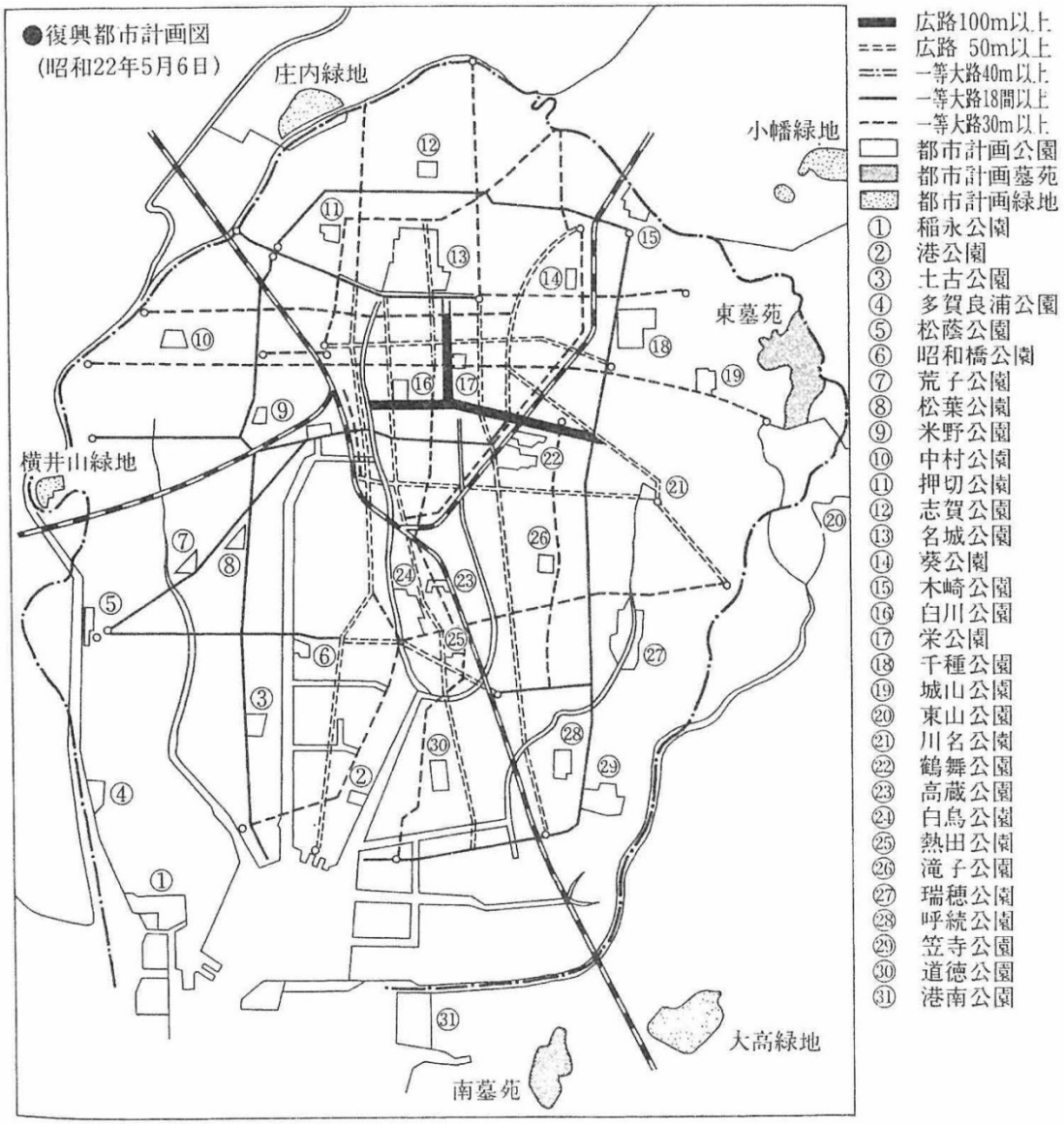
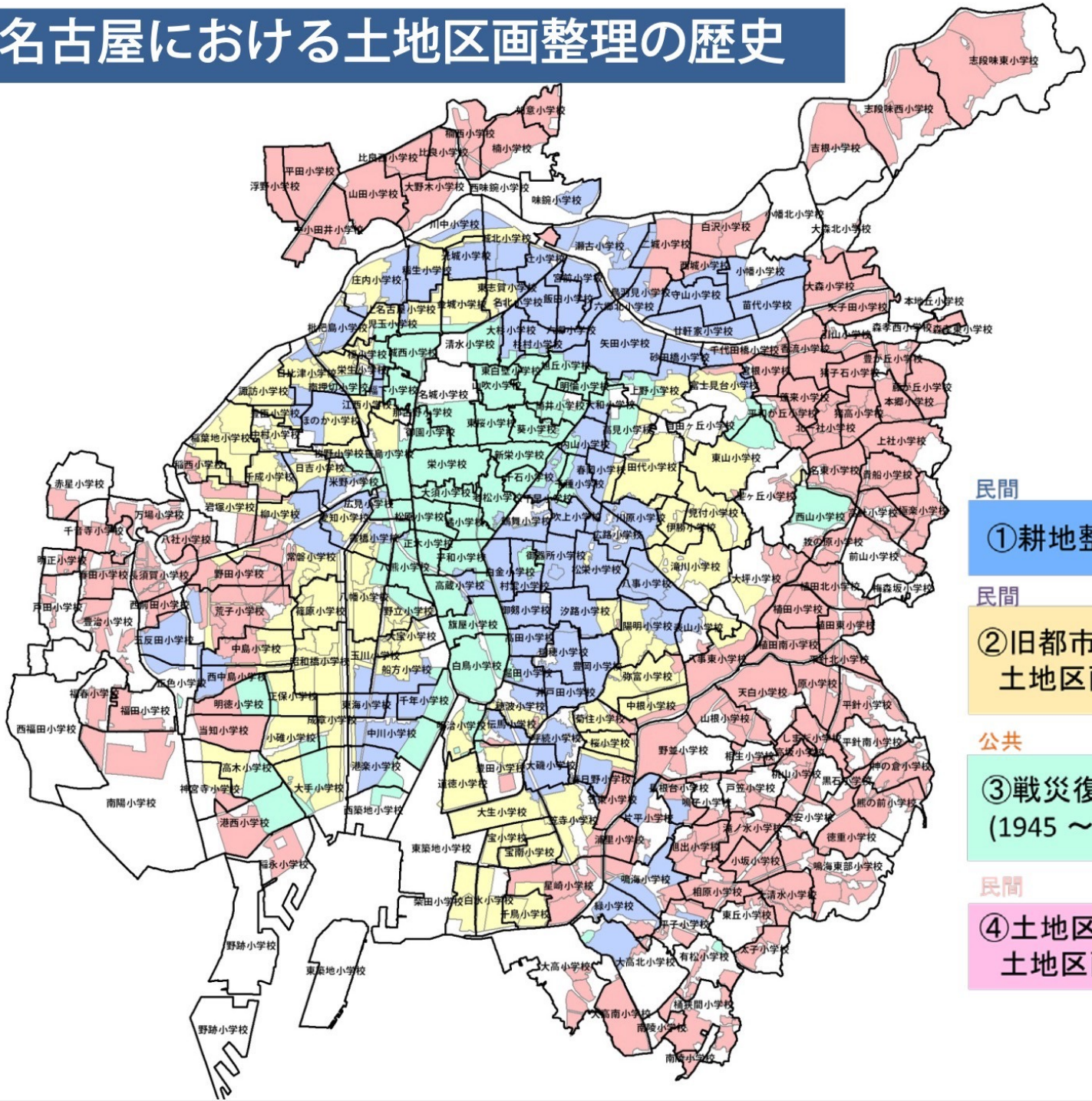


図18　名古屋の戦後の復興都市計画（1947年）（「名古屋市100周年記念誌」1989年による）

名古屋における土地区画整理の歴史



民間

①耕地整理(1905～1931)

民間

②旧都市計画法に基づく
土地区画整理(1919～1954)

公共

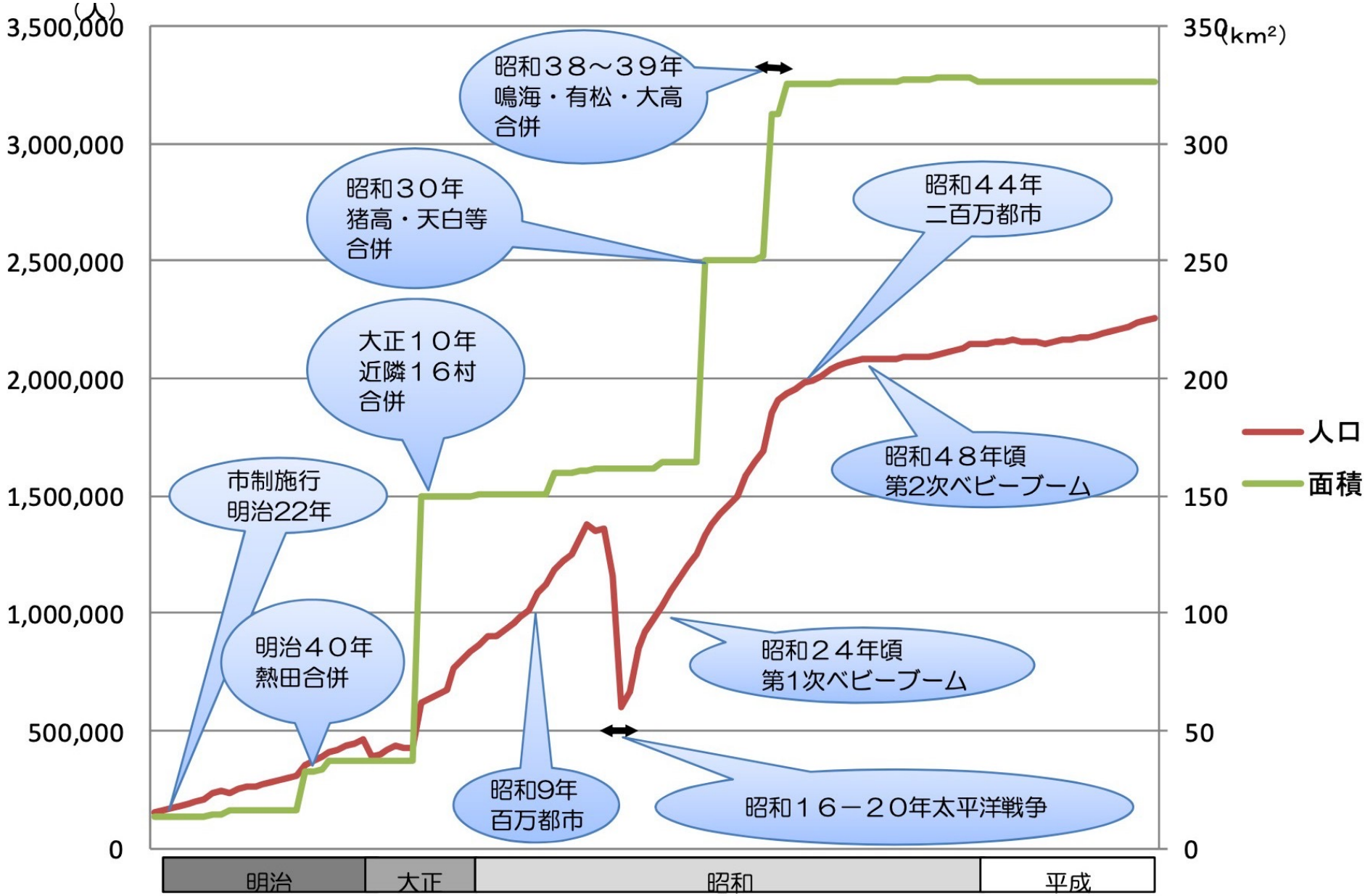
③戦災復興土地区画整理
(1945 ～)

民間

④土地区画整理法に基づく
土地区画整理 (1955 ～)

５.都市の拡大と今後の課題

市制施行以来の名古屋市人口・面積の推移



市域の拡大と高度経済成長

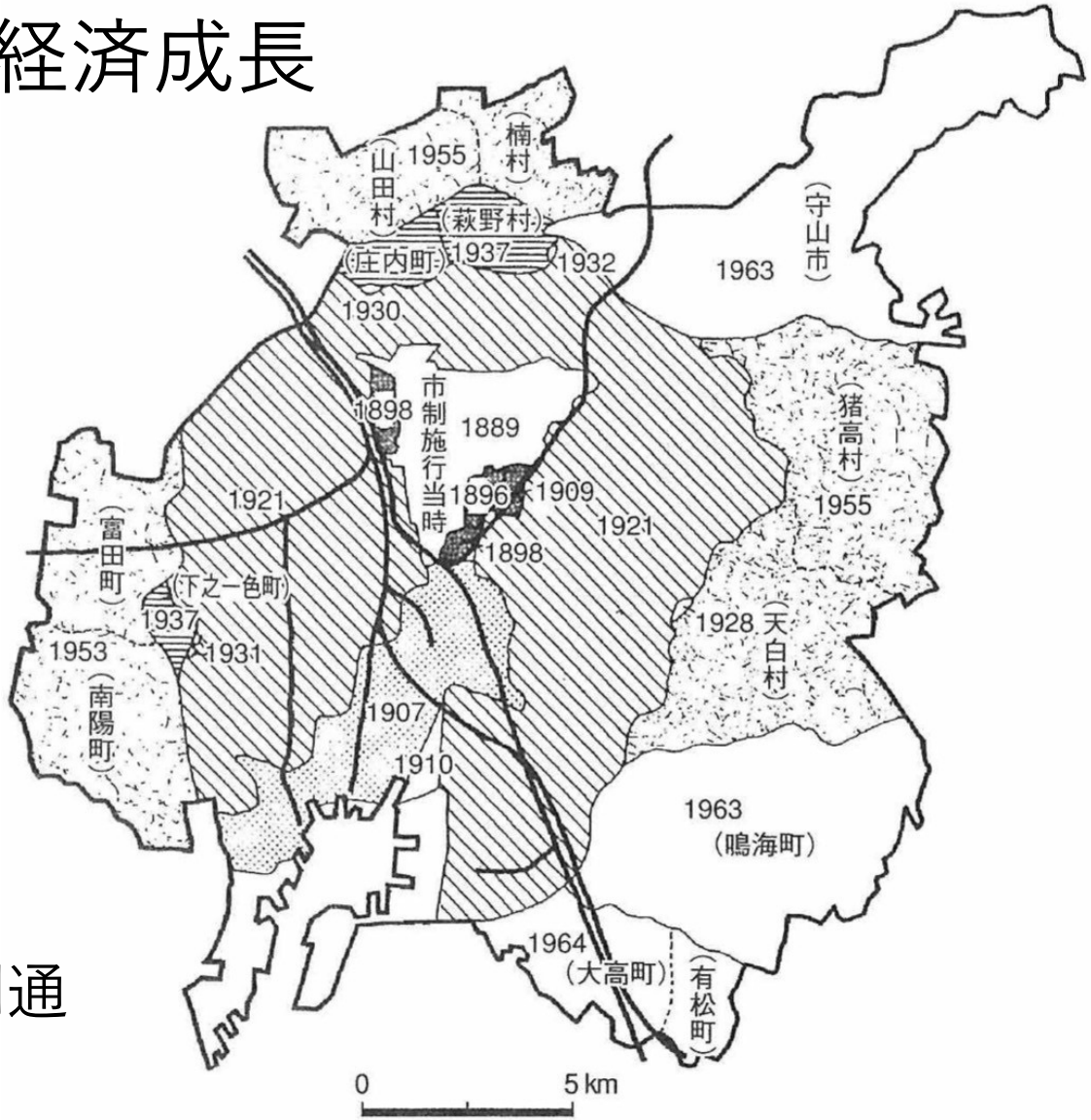


図20　名古屋市域の拡大過程（図中の数字は合併年）
（名古屋都市センター編『名古屋のまちづくりデータブック』1999年による）

産業構造の変化
　工場からオフィスへ
1957名古屋-栄 地下鉄開通

伊勢湾台風　1959

名古屋港で3.89mの高潮
名古屋市域の約半分が浸水

死者5000人余り

高潮の消滅限界は先史時代の
海岸線と一致

1961年災害対策基本法制定

土地利用誘導

堤防による線的防災から
浸水を前提とした面的防災へ

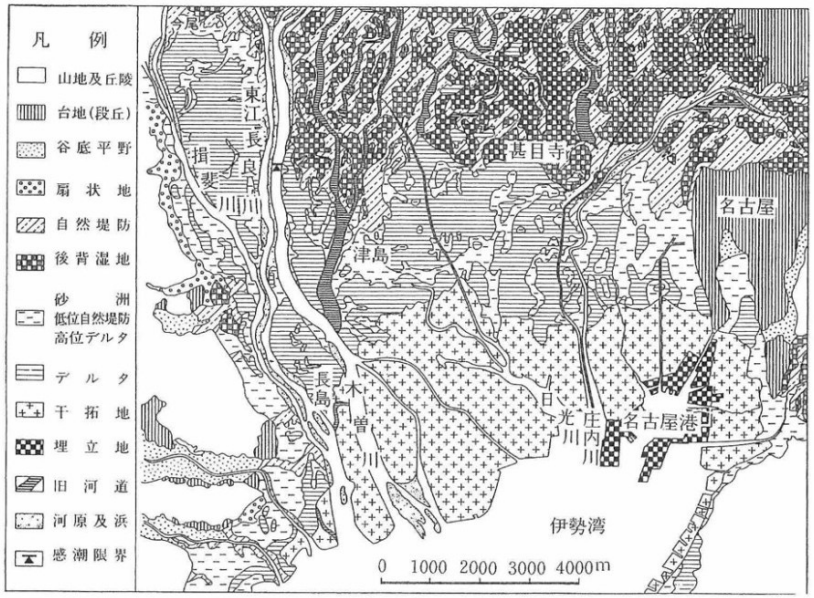


図24　濃尾平野南部地形分類図（大矢雅彦原図）

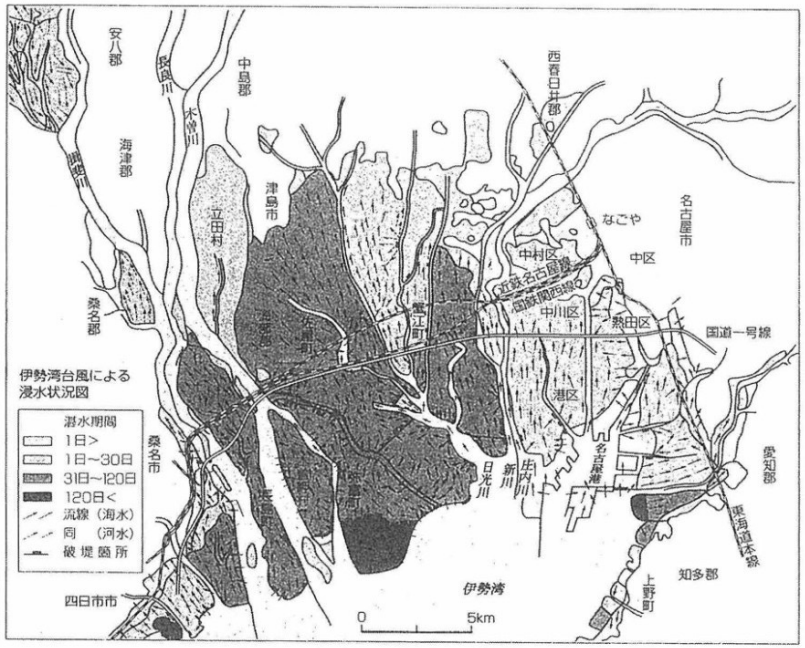


図25　伊勢湾台風時の高潮侵入経路（建設省中部地方建設局木曽川下流工事事務所、1984年）

高蔵寺ニュータウン

Wikipedia

1989年　世界デザイン博覧会
白鳥会場（現名古屋国際会議場）

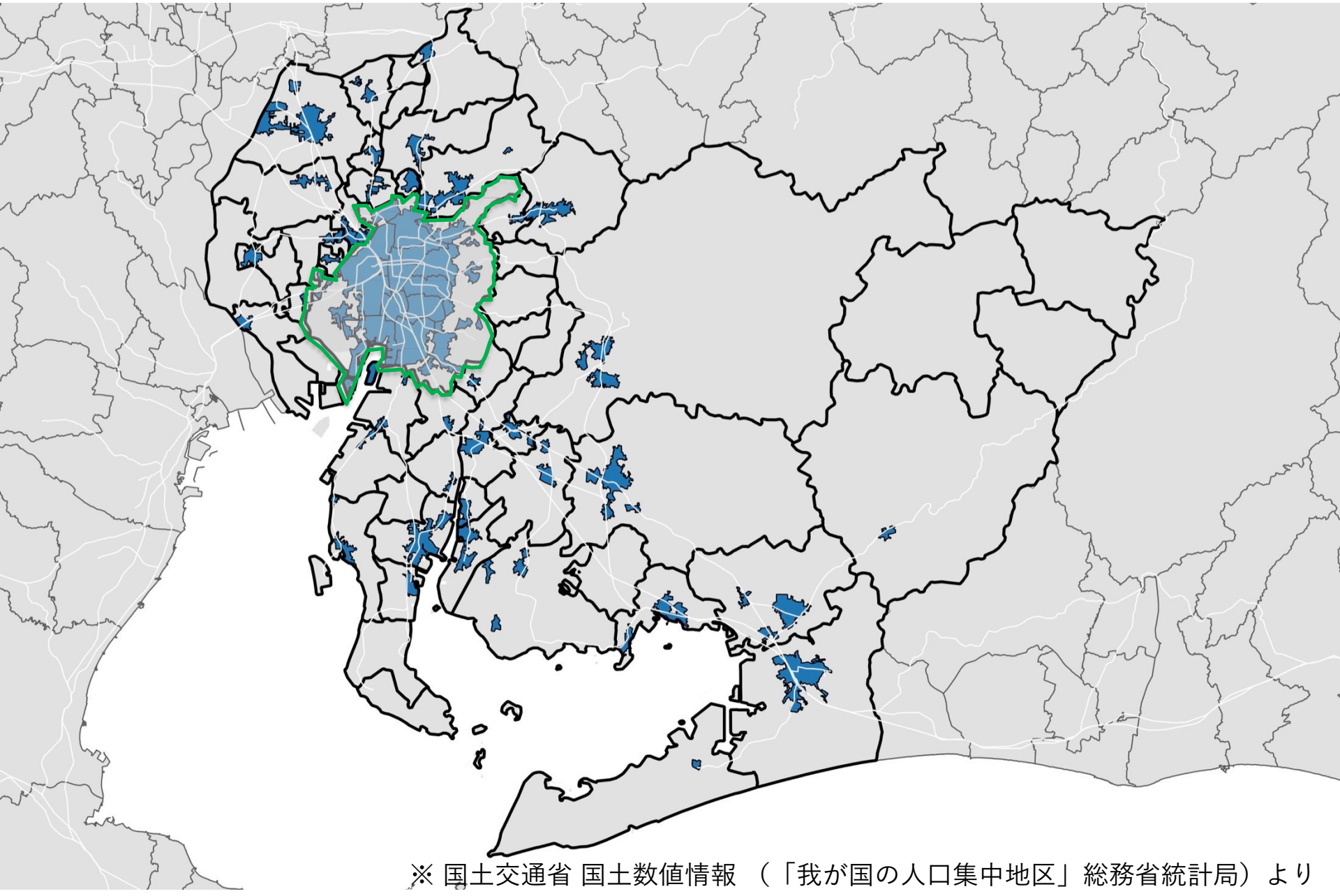
Wikipedia

2005年 日本国際博覧会
愛・地球博　長久手会場

https://www.aichi-now.jp/spots/detail/27/

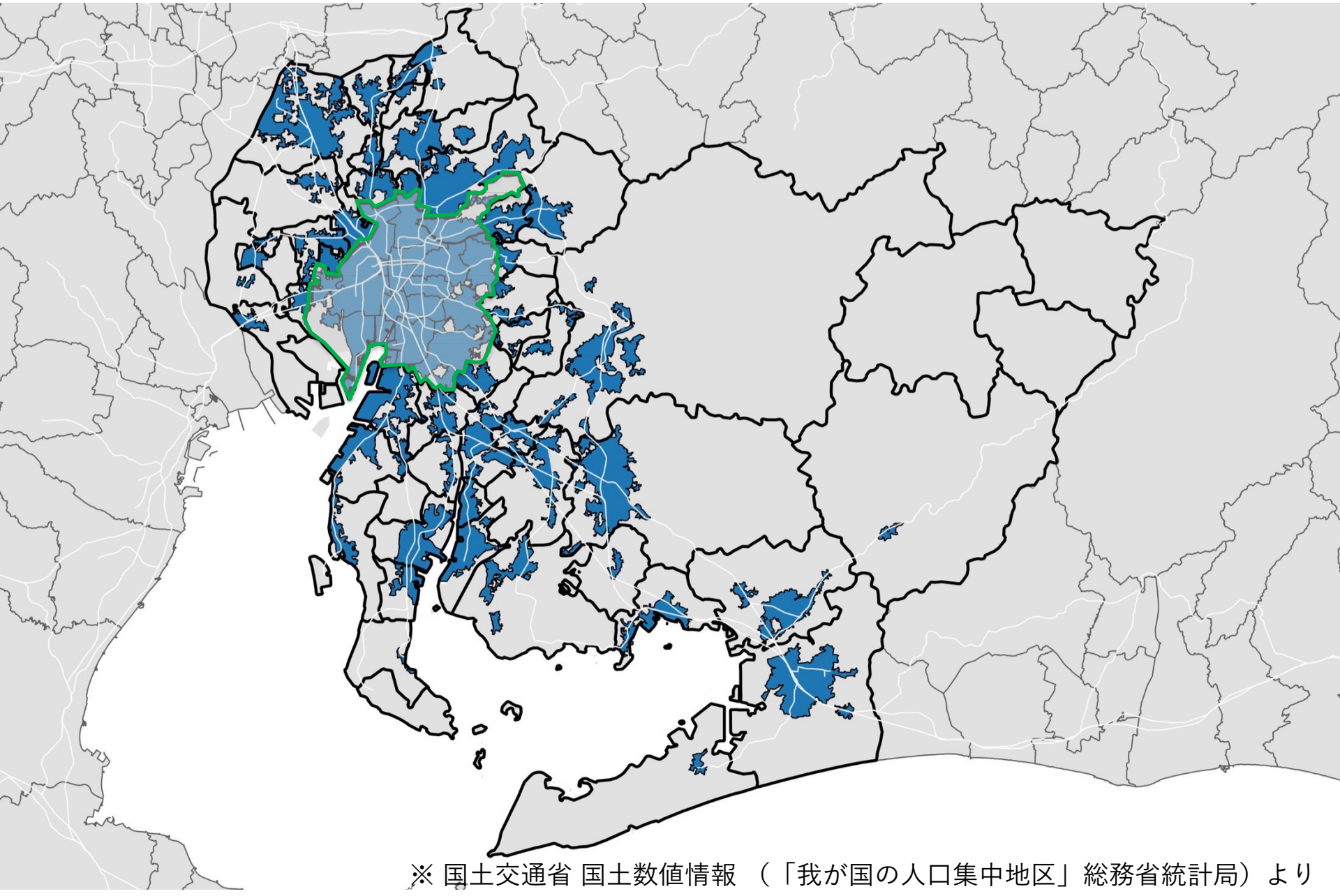
Wikipedia

1970年 DID人口集中地区　Densely Inhabited District



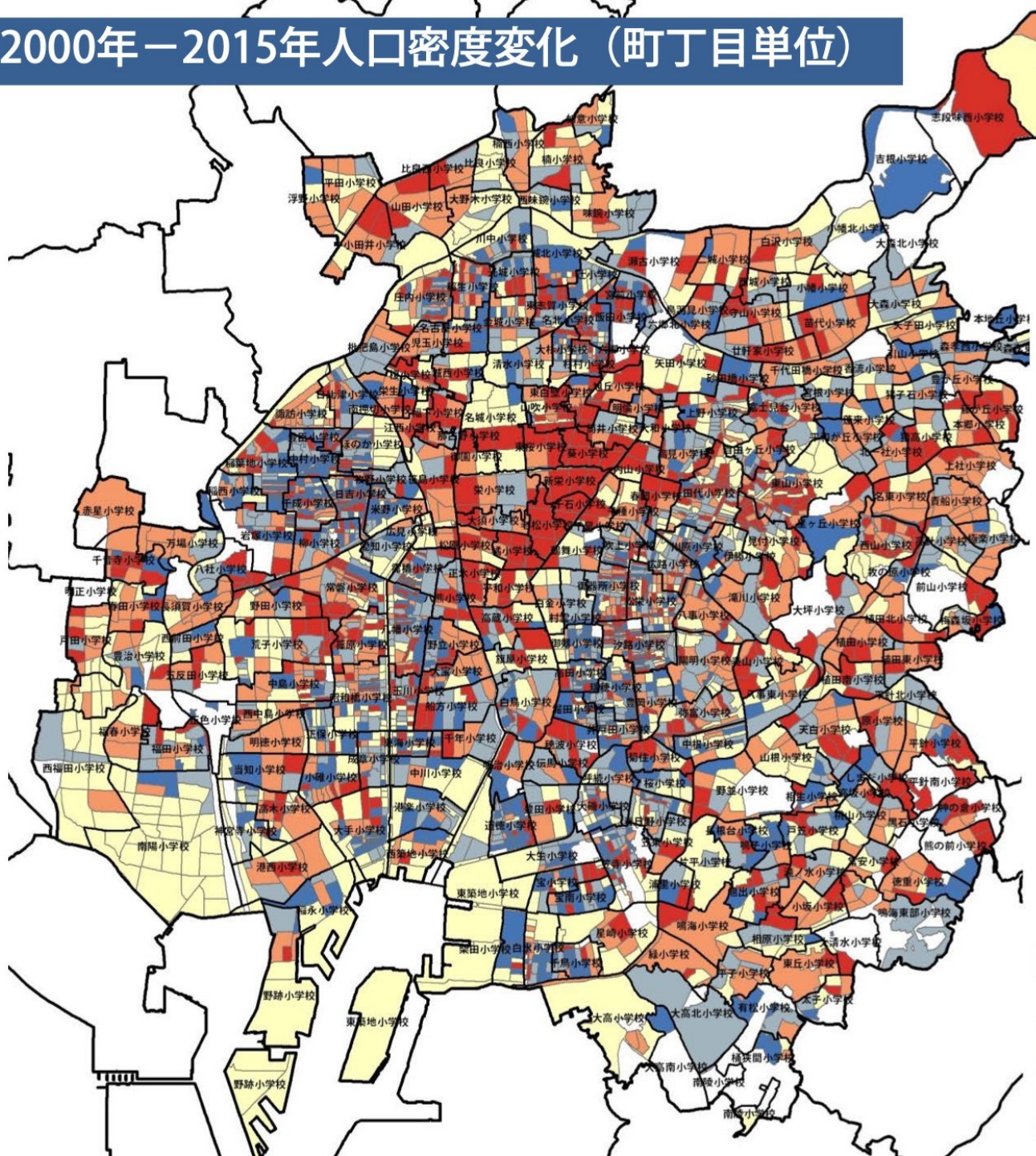
※ 国土交通省 国土数値情報 （「我が国の人口集中地区」総務省統計局）より

2010年 DID 人口集中地区



※ 国土交通省 国土数値情報 （「我が国の人口集中地区」総務省統計局）より

2000年－2015年人口密度変化（町丁目単位）



・都心部で人口回帰現象・郊外地域で人口増加の継続

・早期に土地区画整理が行われた地域において、人口減少・高齢化による中心都市の空洞化

今後郊外部でも、ライフサイクルが一巡して、衰退過程に入るコミュニティが出てくると考えられる

⇒いかに建造環境を維持・更新し、コミュニティの世代的継承を図るのか？

人口密度動

- −1273114.610340 – −1571.259564
- −1571.259563 – −418.620980
- −418.620979 – 319.450022
- 319.450023 – 1626.875308
- 1626.875309 – 216076.408612

1　名古屋市都市計画マスタープラン2030

新たな時代に対応した都市づくりを進めます

策定の目的	■長期的な視点に立ち、将来の都市像やまちづくりの方向性を示す ■地域住民・企業・行政などの協働によるまちづくりを進めるガイドラインとする ■今後の都市計画の決定や見直しにあたっての方針とする
位置づけ	■市町村の都市計画に関する基本的な方針（都市計画法第18条の2） ■市町村の基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即して定める
目標年次	■概ね20年の長期的な見通しのもとに、2030年を目標年次とする

2030年に向けた都市づくりの考え方	**■SDGsの達成** 誰一人取り残さない、経済・社会・環境が調和した持続可能で強靭な都市を構築していく **■スーパー・メガリージョンのセンターしてのポジションの確立** リニア中央新幹線開業を活かして、交流人口の拡大を図り、“にぎわい”と“イノベーション”を生み出す都市づくりを進める **■ライフスタイルの質の向上** ライフスタイル（暮らす、楽しむ、創る・働く）の質を高める都市づくりを進める

■都市づくりの目標

都市づくりの目標 01（暮らす）	都市づくりの目標 02（遊ぶ）	都市づくりの目標 03（創る・働く）
ゆとり便利が織りなす多様で持続可能な生活空間	歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの体験空間	技術力と経済力で輝くグローバルな創造空間

■施策の展開

- 土地利用（地域特性に応じた土地利用の誘導）
- 交通（時代の潮流を見据えた総合交通体系の形成　他）
- 防災・減災（水害・津波に強い地域づくり　他）
- 環境（緑・水の保全、創出　他）
- 住宅・住環境（住宅ストックの質の向上　他）
- 都市魅力（内外からの目的地としての魅力向上　他）
- 産業・イノベーション（イノベーションの創出　他）

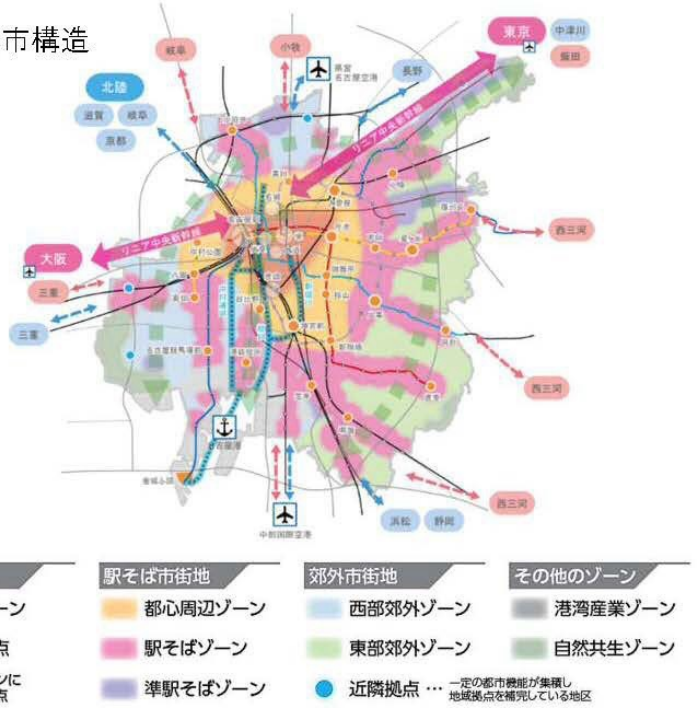
■地域まちづくりの推進

地域主体による、地域がより良くなるために、地域の力（考え）で 地域を育てる「地域まちづくり」を推進

■地域別構想

地域ごとのより詳細な都市計画上の指針を示す

■将来都市構造



名古屋市住宅都市局『名古屋まちづくりの動向』2021.4より転載

都市･名古屋 ～ まとめ

近世・名古屋城下町は、近現代の都市システムの大転換にもかかわらず、基本的構造を維持し、地域の中心的地位を継承している。

明治以降の発展要因は、鉄道や海上を中心とする交通網の整備であり、これらによって、産業発展と人口増加を支えてきた。

都市計画のまちといわれるのは、土地区画整理事業によって、市街地拡大と都市基盤整備を進めてきたことにある。

濃尾地震や伊勢湾台風といった自然災害、太平洋戦争の戦災の被害も大きく、これらからの復興を通して都市の再編が進められた。

近年も経済的中枢機能が集積する広域中心都市として、大規模なイベントや再開発など、活発な都市活動が展開されてきた。

レポート-１

あなたが美しいと思う建築や都市景観、及び、醜いと思う建築や都市景観を、それぞれ１箇所を示し、その写真とともにそれらを選んだ理由を記述してください。自ら、実際に見て撮影した写真に限る。Ａ４用紙１枚に写真２枚と理由をまとめて提出すること。合計400字以上。

締切：4月23日(火)17時。TACTで提出すること。

ファイル名：学籍番号_名字_1（ローマ字半角のみで）

例：082470000_tsunekawa_1

ファイル形式：ワード形式、またはｐｄｆ形式

本文中にも学籍番号と氏名を明記すること。また撮影した場所も明記すること。

※ 選んだ都市景観や建築そのものを評価する課題ではありません。なにを見てどう判断しているのかをみます。

参考文献

- 溝口常俊編著，古地図で楽しむなごや今昔，風媒社、2014
- 溝口常俊監修，名古屋地図さんぽ，風媒社、2015

○名古屋市計画局・名古屋都市センター編著，名古屋都市計画史，1999

○名古屋市住宅都市局，名古屋市歴史まちづくり戦略，2011

○山野明男，地図で探る名古屋のまちの発展過程，愛知学院大学教養部紀要、第56巻第1号

○林董一監修，　城と城下町３ 名古屋，学研，2008

○名古屋市・名古屋市都市計画マスタープラン，2020 https://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-10-9-4-0-0-0-0-0-0.html